

山梨県立大学地域研究交流センター

2014

年度研究報告書

年 報

目 次

| | |
|---------------------------------|----|
| 地域研究交流センター長挨拶「地（知）の拠点を目指して」 | 1 |
| I. 交流・支援部門 | 2 |
| 1. 交流・支援部門事業の概要 | 2 |
| 2. 交流・支援部門事業の実績と課題について | 2 |
| 【交流・支援部門の個別事業】 | 3 |
| 1. 講師・委員等の応嘱 | 3 |
| 2. 学外からの相談等への対応 | 4 |
| 3. 高校大学連携講座の実施 | 4 |
| 4. 教員の地域貢献活動への支援 | 6 |
| 5. 学生による地域貢献活動への支援 | 6 |
| 6. 大学周辺自治会との連携 | 7 |
| 7. 池田地区総合防災訓練への参加・協力 | 9 |
| 8. 「池田地区健康まつり」への参加・協力 | 10 |
| 9. 看護・福祉専門職支援 | 11 |
| 10. その他 | 11 |
| II. 情報発信部門 | 12 |
| 1. 情報発信部門事業の概要 | 12 |
| 2. 情報発信部門事業の実績と課題について | 12 |
| 【情報発信部門の個別事業】 | 13 |
| 1. 年報の発行 | 13 |
| 2. 地域研究交流センターニューズレター「tobira」の発行 | 13 |
| 3. ウェブサイトでの情報発信 | 14 |
| III. 生涯学習部門 | 15 |
| 1. 生涯学習部門事業の概要 | 15 |
| 2. 生涯学習部門事業の実績と課題について | 15 |
| 【生涯学習部門の個別事業】 | 16 |
| 1. 地域研究交流センター主催講座 | 16 |
| (1) 春季総合講座 | 16 |
| (2) 観光講座 | 17 |
| 2. 県民コミュニティカレッジ | 18 |
| (1) 広域ベース講座（3回） | 18 |
| (2) 地域ベース講座（4回）「知っているようで知らないこと」 | 20 |
| 3. 地域連携講座 | 21 |
| (1) 日本語・日本文化講座 | 21 |
| (2) 幼児教育センター月齢別講座 | 21 |
| (3) 子育て支援リーダーステップアップ講座 | 23 |

| | |
|--|----|
| (4) 山梨県助産師会研修講座 | 28 |
| (5) 「やまなしの女性史を学ぶ」講座 | 29 |
| (6) 穴山町サンマ祭り | 30 |
| 4. 学部共催講座 | 31 |
| (1) ソーシャルワークセミナー (人間福祉学部) | 31 |
| (2) 第7回保育リカレント講座 (人間福祉学部) | 32 |
| (3) 健康講座「いのちのコール」(看護学部) | 33 |
| (4) 地域研究交流センター・国際政策学部共催講演会 | 34 |
| | |
| IV. 地域研究部門 | 36 |
| 1. 地域研究部門事業の概要 | 36 |
| 2. 地域研究部門事業の実績と課題 | 36 |
| 【地域研究部門の個別事業】 | 37 |
| 1. 地域研究事業 (共同研究・プロジェクト研究) | 37 |
| 1) 双方向型の高大連携による地域資源を活かした授業モデルの構築 | 37 |
| 2) 地域の公立学校におけるタブレット端末利用上の課題に関する研究 | 37 |
| 3) 山梨県の小学校における「外国語活動」の効果的運営に関する実践的研究 | 38 |
| 4) やまなし地域女性史「聞き書き」プロジェクト | 39 |
| —「聞き書き証言集第3集」の刊行に向けて— | |
| 5) 医療従事者の認知症対応能力向上に向けての取り組み | 40 |
| —地域中核病院看護職者を対象とした「認知症対応能力向上」研修会の企画と評価— | |
| 6) 小学生とその親を対象とした「いのちの学習会」の効果 | 41 |
| 7) 外国につながるのある就学前児童のためのプレスクール構築に向けて | 42 |
| 2. 研究報告会 | 43 |
| | |
| V. 戦略開発部門 | 44 |
| 1. 戦略・開発部門事業の概要 | 44 |
| 2. 山梨県立大学地域研究交流センター組織改編案 (2015年3月18日) | 44 |
| | |
| VI. 事務局 | 47 |
| 1. 運営委員会記録 | 47 |
| 2. 組織図・委員名簿 | 49 |
| 3. 地域研究交流センター委員一覧 | 50 |
| | |
| 資料 | 51 |
| 1. 年間の時系列記録 | 51 |
| 2. フライヤー等 | 57 |

センター長ご挨拶「地（知）の拠点を目指して」

地域研究交流センター長 吉田 均

地域研究交流センターは、2005年開学と同時に全教員が参加する組織として設置されました。そして「地域と向き合い、地域に開かれた大学」を具現化すべく、多くの地域貢献活動を推進してきました。山梨県立大学は、2010年に公立大学法人化を無事果たし、自主的運営のメリットを生かして、地域との活動を展開すべく努力してきました。活動のすべては、この年報で報告されていますが、今年度の特長的なものをいくつかご紹介いたします。

<「地（知）の拠点整備事業」（大学COC事業）>

平成25年度本学は、文部科学省の重点事業である「地（知）の拠点整備事業」（大学COC事業）に採用されました。初年度事業は、全国の大学の約半数にあたる319校が申請し、採択されたのはわずか52校でした。県内からわずか1大学という難関を突破しました。

今年度は、特に「地域志向教育研究経費」による12件の教育研究活動を展開し、社会貢献を教育に取り入れたアクティブラーニングによる教育改革に力を入れてきました。現在それを基に大学のカリキュラムを改革し、最終的に山梨県における知の拠点を目指すべく努力を続けています。

<地域研究の推進と地域への還元>

毎年、センターでは「プロジェクト研究」と「共同研究」を学内募集しています。本年度は、プロジェクト研究4件と共同研究3件を採択し実施しました。3月24日には、研究報告会を開催し、その成果を発表いたしました。

また昨年度より実施要項の見直しを開始し、今年度は研究の運営方法の改善と質の向上を目指した「検証委員会」で選考評価表を試作しました。今年度の研究より実際に使用し、その効果を検証します。将来的には、外部の専門家も交えた評価体制に移行していく予定です。

<今後の課題>

来年度は、大学COC事業に加え、新たに大学COC事業プラスの申請が開始されます。この事業は、従来事業とは異なり、県内での雇用増加と、若者の県内就職率増加を直接目標としています。本学も、県内の大学とコンソーシアムを組んで申請する予定です。しかしながら採択数も少なく、またその数値目標から、従来大学COC事業より一段と難しい事業展開となります。しかし同時にそれが、新しい事業手法を学ぶ機会になるとも信じております。

最後に、本センターの活動にご協力いただいたすべての方々に感謝すると共に、今後とも地域研究交流センターへのご関心、ご支援を切にお願い申し上げます。

（文責：吉田均）

交流・支援部門

1. 交流・支援部門事業の概要

(1) 講師・委員等の応嘱

学外の団体等からの依頼により、本学教員が講演、研修等の講師を務めるほか委員等へ委嘱された。

(2) 学外からの相談等への対応

学外団体主催行事への協力、協力名義提供、施設提供などに対応した。

(3) 高校大学連携講座の実施

平成 18 年度から実施している城西高校との高大連携講座を継続実施した。

(4) 教員の地域貢献活動への支援

教員の地域貢献活動への支援メニューを企画・実施した。

(5) 学生による地域貢献活動への支援

「学生優秀地域プロジェクト」認定・支援の制度に基づき、3 件のプロジェクトを認定・支援したほか、「学生活動支援室」の活動として、学生の地域貢献活動を促すための情報提供を行った。

(6) 大学周辺自治会との連携

2010 年度から開始し、4 年目になる大学周辺自治会との連携活動は今年度は休止した。来年度から再開する予定である。

(7) 池田地区総合防災訓練への参加・協力

地域自治会との情報交換を契機に依頼された事業として、池田地区騒動防災において、看護学部の教員および学生が、救急救命・応急処置等についての講習・指導を行った。

(8) 「池田地区健康まつり」への参加・協力

池田地区連合会からの依頼を受け、看護学部の協委員と学生が 4 年連続で「池田地区健康まつり」に参加・協力した。

(9) 看護・福祉専門職支援

学習会や講演会等の企画を検討することを年度計画に挙げたが、企画立案には至らなかった。

2. 交流・支援部門事業の実績と課題について

大学周辺自治会と、情報交換会、地域自治会への参加・協力などを継続している。本学の、研究・教育の実績を活かして、地域や専門機関などと、足元の地域から地道に日常的に交流・支援を広げていく方向性をさらに学内全体で共有・展開していく。

【交流・支援部門の個別事業】

1. 講師・委員等の応嘱

本学教員は、学外の団体・自治体・学校等から依頼を受け、各種講師・委員等に応嘱している。平成26年度の応嘱状況を下の表に示す。これによれば、全学でのべ390件の応嘱があり、内訳は、講義・講演が274件、委員等が109件、その他が7件であった。学部別には、国際政策学部が29件、人間福祉学部が153件、看護学部が203件、職員等が5件であった。

なお、本報告における数値は平成26年3月25日までに地域研究交流センターが把握した情報に基づくものである。ここに示した数値は、大学に対し文書による派遣依頼がなされた案件、もしくは大学が人員選定等に関与した案件に限定されており、これ以外にも把握されていない案件が存在すると思われる。

表1 平成26年度の講師・委員等応嘱状況

| 学部名 | 依頼内容名 | | | 総計 |
|------|-------|-----|-----|-----|
| | 講義・講演 | 委員等 | その他 | |
| 国際政策 | 12 | 15 | 2 | 29 |
| 人間福祉 | 123 | 26 | 4 | 153 |
| 看護 | 138 | 65 | 0 | 203 |
| 職員等 | 1 | 3 | 1 | 5 |
| 総計 | 274 | 109 | 7 | 390 |

表2 平成26年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：講義・講演

| 依頼者 | 国際政策 | 人間福祉 | 看護 | 職員等 | 総計 |
|------------|------|------|-----|-----|-----|
| 幼稚園・保育園 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 小中学校 | 0 | 3 | 5 | 0 | 8 |
| 高等学校 | 6 | 1 | 7 | 0 | 14 |
| 専門学校 | 0 | 1 | 8 | 0 | 9 |
| 大学・短期大学 | 0 | 1 | 8 | 0 | 9 |
| 県関係機関 | 1 | 30 | 24 | 0 | 55 |
| 市区町村 | 1 | 41 | 12 | 0 | 54 |
| 各種団体 | 1 | 35 | 37 | 0 | 73 |
| 医療機関・福祉機関等 | 0 | 6 | 31 | 0 | 37 |
| 省庁等 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| その他 | 3 | 5 | 5 | 0 | 13 |
| 総計 | 12 | 123 | 138 | 1 | 274 |

表3 平成26年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：委員等

| 依頼者 | 国際政策 | 人間福祉 | 看護 | 職員等 | 総計 |
|------------|------|------|----|-----|-----|
| 高等学校 | 0 | 3 | 0 | 0 | 3 |
| 大学・短期大学 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 県関係機関 | 6 | 9 | 18 | 1 | 34 |
| 市区町村 | 1 | 2 | 6 | 0 | 9 |
| 各種団体 | 7 | 10 | 40 | 1 | 58 |
| 医療機関・福祉機関等 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 省庁等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 1 | 1 | 0 | 1 | 3 |
| 総計 | 15 | 26 | 65 | 3 | 109 |

表4 平成26年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：その他

| 依頼者 | 国際政策 | 人間福祉 | 看護 | 職員等 | 総計 |
|------------|------|------|----|-----|----|
| 小中学校 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 県関係機関 | 0 | 3 | 0 | 0 | 3 |
| 市区町村 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 各種団体 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 医療機関・福祉機関等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 2 | 1 | 0 | 0 | 3 |
| 総計 | 2 | 4 | 0 | 1 | 7 |

(文責：青柳暁子)

2. 学外からの相談などへの対応

地域研究交流センターは、学外と大学をむすぶ窓口として活動しており、さまざまな依頼・相談・照会等に対応するほか、学外団体主催行事への協力、協力名義提供施設提供などに対応している。本年度も各種活動への協力名義提供、施設提供を行った。

(文責：川池智子)

3. 高校大学連携講座の実施

「山梨県特色ある高校づくり支援事業」として城西高校からの依頼を受け平成18年度より実施している看護・福祉系進路希望者を対象とした「家庭看護・福祉」の科目の高校大学連携講座を、本年度も継続して実施した。看護学部7名、人間福祉学部8名、社会福祉士1名、計14名の教員の協力があった。教員名とテーマは以下の通りである。

平成26年度「福祉と看護」 (山梨県立大学連携授業)
 火曜日午後(13:45～14:35 14:40～15:30)

| 講義 | 月日 | 担当先生 | 講義テーマ |
|-----------|--------|----------|-----------------------------|
| オリエンテーション | 4月15日 | 甲府城西 | |
| | 4月22日 | 甲府城西 | |
| 看護学部 | 5月6日 | 小林美雪 | 医療・福祉の安全について |
| 人間福祉学部 | 5月13日 | 田中謙 | 知的障害児の教育・福祉 |
| | 5月20日 | 甲府城西 | |
| | 5月27日 | 甲府城西 | |
| 看護学部 | 6月3日 | 本間隆之 | 保健プログラムの評価とマネジメント |
| | 6月17日 | 甲府城西 | |
| | 6月24日 | 甲府城西 | |
| | 7月1日 | 甲府西消防署 | |
| | 7月8日 | 甲府城西 | |
| | 7月15日 | 甲府西消防署 | |
| | 7月22日 | 甲府城西 | |
| 看護学部 | 8月26日 | 大久保ひろ美 | 看護に必要な技 ～日常生活習慣を見つめよう～ |
| 看護学部 | 9月2日 | 渡邊輝美 | 口腔内の清潔 |
| 看護学部 | 9月9日 | 清水恵子 | 高校生にできる 自殺予防教育 |
| 人間福祉学部 | 9月16日 | 畑本裕介 | 地域社会の変化と社会福祉 |
| 人間福祉学部 | 9月30日 | 池田充裕 | 子どもの貧困と社会・教育格差 |
| | 10月7日 | 甲府城西 | |
| | 10月14日 | 甲府城西 | |
| 人間福祉学部 | 10月21日 | 山中達也 | 「聴く」ことの意味を考えてみよう |
| 人間福祉学部 | 10月28日 | 坂本玲子 | 思春期のメンタルヘルスー脳と心ー |
| 人間福祉学部 | 11月4日 | 大塚ゆかり | お互いに助け合い、分かち合うこととは |
| 社会福祉士 | 11月11日 | 堀内直也 | |
| 人間福祉学部 | 12月2日 | 上條優子 | 「チームビルディング」または「リーダーシップを考える」 |
| 人間福祉学部 | 12月9日 | 川池智子 | 発達障害を理解する |
| | 12月16日 | 小池賀津江 | |
| 看護学部 | 1月13日 | 平田良江・飯島梢 | 女性が母親になる過程と必要なケア・赤ちゃんの観察とケア |
| 看護学部 | 1月20日 | 平田良江・飯島梢 | 池田キャンパスでの演習 |
| まとめ | 1月27日 | 甲府城西 | |

(文責：川池智子)

4. 教員の地域貢献活動への支援

(1) 教員への支援メニューの策定・周知

前年度に続き、教員が自主的に行う位生き貢献活動を促進するために、教員を他ウィ症とした支援メニューを周知、実施した。周知したメニューは以下の通りである。

(a) センター主催の「地域交流・貢献活動」としての採択・実施

本学教員が主体的に企画・実施する県内特定地位市での交流事業を対象とする。内容に応じて、旅費、消耗品などを支援する。

(b) センター「支援事業」の認定・支援

センターの「支援事業」として認定し、報道機関への情報提供、センターのウェブサイトを通じた広報など、可能な範囲で支援する。

(c) センター「後援」等の名義の使用

名義使用により、センターがその趣旨等に賛同している旨の対外的表示ができる。教員が主体的に関与する事業のほか、学外団体から協力を依頼された事業で、本学の地域貢献として賛同・応援の意志表明をするにふさわしいものを対象とする。

(d) 学生ボランティアの募集協力

「学生活動支援室」を平成 19 年度に開設し、がくせいによる地域貢献活動の推進を行っている。この「支援室」を通じ、本学での学生ボランティア参加者募集等に協力することができる。

(e) その他

上記以外の支援メニューについても、今後検討していく。具体的なご要望などがあれば相談を受け付ける。

(文責 青柳暁子)

5. 学生による地域貢献活動への支援

(1) 「学生優秀地域プロジェクト」の認定・支援

「山梨県立大学地域研究交流センター『学生優秀地域プロジェクト』認定・支援制度 実施状況」を平成 20 年 6 月に定めた。これは本学学生の又は学生団体が地域において実施する事業で、地域および本学に対してすぐれた貢献をしたものを認定し、本学学生による地域課題解決のための継続的な活動を推進することを目的としたものである。認定されたプロジェクトは、本学ウェブサイトにも広報するほか、センターが可能な支援を行う。

実施要綱に基づき、平成 26 年度認定プロジェクトの選考を以下のプロセスで実施した。

(a) 教職員からの推薦

実施要綱では推薦の資格を有するのは本学教職員となっている。平成 26 年 12 月に教職員からの推薦を募った。その結果、3 件のプロジェクトが推薦された。

(b) 選考委員会による選考

センター長が組織した選考委員会において選考を行った。選考委員会のメンバーは、小田切理事、吉田均教授、箕浦准教授、渡邊裕子准教授、村木洋子准教授、青柳講師の6名であった。

平成27年1月23日に選考委員会が開かれ、協議の結果3件のプロジェクトの認定が決定された。

(c) 認定

認定式を平成27年1月28日 12:20分～12:50に飯田キャンパスA館2階中会議室にて開催した。

| | プロジェクト名 | 実施主体 |
|---|--------------------------|----------------------------|
| 1 | 甲斐絹のビジネス化 カードケース開発プロジェクト | 合同会社飯田甲斐絹堂カードケース開発プロジェクト班 |
| 2 | NOTOを通じた中心市街地活性化事業 | 奥津萌・久保田光貴他、「花子とアン推進委員会」関係者 |
| 3 | ふれあい重視の在宅ケア・ネット構築プロジェクト | 在宅看護研究会 |

表 平成26年度 学生優秀プロジェクト 認定一覧

(2) 「学生活動支援室」の活動

平成19年度より設置している「学生活動支援室」により学内に設置した掲示板を通じて、大学・教員に寄せられる学生ボランティア募集などの情報の学生への情報発信を行った。

(文責：青柳暁子)

6. 大学周辺自治会との連携

(1) 地域自治会との懇談会

平成22年度から大学周辺自治会との連携活事業として懇談会を実施していたが、今年度は実施できなかった。来年度への課題としたい。

(2) 鶴巻台西自治会内における「鶴巻台西いこいの会」と学生の交流

山梨県立大がサークルMOTTAINAIは、平成24年6月より、県立大学飯田キャンパス近隣(グラウンド南側)の鶴巻台西自治会の「鶴巻台西いこいの会」で、高齢者との交流事業を続けている。甲府市には高齢者が集まって交流する地域型サロンが109か所あり、「鶴巻台西いこいの会」もそのひとつである。平成26年は下記の活動を行った。

平成 26 年 4 月 6 日 お花見会 県大グラウンド横にて地域高齢者とのお花見交流会
参加者：学生 4 名、地域の方 12 名

平成 26 年 5 月 24 日 「みんなでいい汗かきま SHOW」 県立大学講堂にて地域の高齢者との
ミニ運動会
参加者：学生 11 名、地域の方 8 名

平成 26 年 7 月 12 日 「サンドイッチパーティー」 県立大学カフェテラス 1 階にて
地域高齢者とサンドイッチを作り、食事と会話、レクリエーションの交流会
参加者：学生 12 名、地域の方 3 名

平成 27 年 1 月 28 日 「おしるこ会」 鶴巻台西いこいの家にて
地域の方々とお汁粉とレクリエーションの交流会
参加者：学生 10 名、地域の方 10 名

平成 27 年 2 月 12 日 「ほうとうパーティー」 甲府市中央公民館にて
地域の方からほうとうづくりを教わる交流会
参加者：学生 12 名、地域の方 5 名

なお、7 月 12 日に行われたサンドイッチパーティーには地元ケーブル局の NNS が取材に
来られ、映像が番組で流れた。



(文責：青柳暁子)

7. 池田地区総合防災訓練への参加・協力

池田地区総合防災訓練への協力について、池田地区連合自治会より依頼があった。本件に関しては今年度で4回目の依頼となるが、担当者が池田地区連合自治会で行われた防災訓練の企画会議に参加し、綿密な打ち合わせを行った。また、地域住民用に「おぼえておこう 災害時の応急処置」、小学生用に「こどもにもできる応急処置」という自作の資料を用意し、当日は吉田センター長と看護学部の教員および学生が参加した。

日時：平成26年8月31日（日）8:00～11:00

場所：池田小学校・西部市民センター・甲府西高等学校・甲府城西高等学校

協力者：教員（11名）吉田均・流石ゆり子・村松照美・清水恵子・城戸口親史・森田祐代・山本奈央・飯塚恵美・萩原理恵子・阿佐美祐子・渡邊裕子

学生（10名）宮下香鈴・熊倉幸子（4年生）・小野寺海大・田中ゆかり（3年生）・飯田茉唯・武原遥・前田海菜（2年生）・定月美彩代・曾根裕也・野中美枝（1年生）

内容：救護訓練

- ・ 災害時救護所で活用できる救護（看護）の知識と技術
- ・ 小学生に向けた災害時の応急処置（大人とは別に開講）

池田地区の住民655名が参加し、池田地区の避難所として指定されている4ヶ所で、住民ひとり一人が災害時に落ち着いて行動できるように、実際の避難を想定した大規模な防災訓練が実施された。本学の教員および学生は、4ヶ所の避難所に分かれて、身近にあるものを利用して住民ができる応急処置（骨折時の固定・気道確保・止血法等）について、参加者の協力を得ながら実践指導を行った。甲府城西高等学校会場では、住民からの強い希望に応え、AEDの使用方法についても体験した。また、大人とは別の教室では、小学生を対象に（出血や骨折時の処置等）について指導した。住民は真剣に参加し、熱心な質問したり実技を行ったりしていた。「毎年来ているが、いつも貴重な体験ができ、他に例のない防災訓練になっている。」と多くの感謝の言葉をいただいた。

救護訓練の指導という立場での参加であったが、学生も教員も地域の住民としての自分の役割を考えることができ、同時に多くの大学周辺自治会住民との交流が持てる貴重な機会であった。

以上

（文責：渡邊裕子）



救護所で活用できる応急処置_池田小学校会場



こどもにもできる応急処置

8. 池田地区健康まつりへの参加・協力

2015年3月1日（日）に甲府市西部市民センターで開催された「池田地区健康まつり」に、教員と看護学部の学生が参加した。池田地区連合会からの依頼を受け、5年連続での参加・協力となった。昨年度好評であった血圧・体組成・Functional Reach Test（姿勢反射機能と柔軟性の評価）・血管年齢・足指力・敏捷性について、教員指導の元で学生が測定した。また、健康相談コーナーを充実し、甲府市の地区担当保健師および西地域包括支援センターの看護師とも連携して、測定した結果を渡して参加した地域住民の健康に関する相談に応じたり、自作のパンフレットを用いて転倒予防体操や生活習慣病の予防について指導を行ったりして、地域住民と学生および教員が交流を深めた。

地域の方々は学生や教員の参加を楽しみに待っていてくださり、測定結果を見ながら真剣に相談していた。また、看護職を目指す若い学生にエールを送ってくださる方も多く、学生は「地域で健康に暮らしている方のニーズを知り直接お話しできる貴重な機会だった」と学びの多い時間となった。

本事業への参加は“健康”を考えながら、学生・教員と地域の方々が直接交流を深めることができる貴重な機会である。「今後も是非継続して参加してほしい」という要望もいただき、看護学部が身近な存在として、地域の中に受け入れられていることに感謝し、今後もさらに地域との交流・連携を深めていきたいと考える。参加教員と学生は、以下の21名である。

教員（7名）：流石ゆり子・村松照美・渡邊輝美・小山尚美・森田祐代・萩原理恵子・渡邊裕子（看護学部）
学生（14名）：長田悠未・清水葵・宮下香鈴（4年生）、明里彩・市川恵利香・小野寺海大・長瀬綾恵・水科円花（3年生）、勝山祐花・中山佳歩（2年生）、剣持理恵・定月美彩代・田中かなえ・野中美枝（1年生）



（文責 渡邊裕子）

9. 看護・福祉専門職支援

山梨県立大学地域研究交流センターの地域研究部門における「特別研究事業」の中で、平成 20 年度に看護・福祉専門職支援コーディネーター部門が、看護学部と人間福祉学部との協働による看護職と介護職の連携に関する調査研究を実施した（調査研究の取りまとめは「看護職と介護職の連携に関する研究調査報告書」として発行）。この調査研究では、看護職と介護職との連携の実態や課題が把握された。

交流・支援部門は、看護・福祉専門職支援コーディネーターの役割を持つことになっているが、看護・福祉専門職支援は実施できていない現状がある。

今年度看護・福祉専門職支援に関する企画立案には至らなかったため、継続審議していくこととなった。

(文責：青柳暁子)

10. その他

今年も、障害児のサマーキャンプの資金集めのために 2014 年 6 月 14 日に開催された、「第 17 回山梨チャリティーラン 2014」で、本学学生 30 名がボランティアとして参加した。このチャリティーマラソンは、山梨 YMCA ・甲府ワイズメンズクラブ・山梨日日新聞・山梨放送などが、実施している県内最大のチャリティーマラソンで、山梨 YMCA からの要請で、資金援助は可能だが、どうしてもランナーが集まらない企業のゼッケンを付け、代走者として参加した。本学から派遣した学生数は、1 団体から派遣したボランティア数では、県内最大となり、主催団体からは今年も高い評価を受けた。

(文責：吉田均)

情報発信部門

1. 情報発信部門事業の概要

(1) 年報の発行

『2013年度山梨県立大学地域研究交流センター年報』を2014年5月20日付けで発行した。

(2) 地域研究交流センターニューズレター「tobira」の発行

地域研究交流センターニューズレター「tobira」を、本学と地域を結ぶ機関紙として発行し、県内外の関係機関・団体等に配布した。2014年度は下記の通り発行した。

①第22号：2014年6月6日発行

②第23号：2014年9月20日発行

③第24号：2015年2月18日発行

なお、年度途中で編集・印刷を委託している業者を変更したため、第24号は、当初の予定より若干遅れたものの、ほぼ定期通りに発行できた。

(3) ウェブサイトでの情報発信

ウェブサイトにおいて、センターの概要、生涯学習の案内、地域連携・支援の取り組み、地域研究、刊行物、活動記録等について情報発信した。

2. 情報発信部門事業の実績と課題について

ウェブサイト、ニューズレター、年報の媒体を用いて、地域研究交流センターの事業活動について学内外に情報発信を行った。こうした情報発信は、事業記録としても有効であり、大学の説明や自己点検評価等にも活用されている。

2014年度も、前年度と同様の体制のもとで、継続的に情報発信活動を行った。ニューズレターと年報については、おおむね予定通りのスケジュールで発行され、安定的に情報発信することができている。ニューズレターでは、本学教員の研究成果を分かりやすい形で地域に発信するために、新たに「私の研究室」コーナーを設けた。今後とも、さらに内容の充実を図っていく必要がある。ウェブサイトについては、さらに的確で効果的な情報発信のために、センター全体のビジョンに基づきつつ、大学全体の広報活動との関係もふまえて、戦略的な情報発信を進めていく必要がある。

【情報発信部門の個別事業】

1. 年報の発行

『2013年度山梨県立大学地域研究交流センター年報』を2014年5月20日付けで発行した。この『年報』は、地域研究交流センターの事業実績を年度ごとにまとめたもので、地域研究交流センター説明資料や自己点検評価等の資料として活用されている。2009年度までは年度末に年報を発行してきたが、2010年度からは次年度の5月に発行予定時期を変更した。『2013年度年報』も、予定通り2014年5月に発行することができた。

(文責：藤谷秀)

2. ニュースレター「tobira」の発行

地域研究交流センターニュースレター「tobira」は、本学と地域を結ぶ機関紙であり、本学の教員や学生による地域貢献活動、地域住民・関係機関・自治体等との連携事業を広く県内外に情報発信する役割を持っている。これまでは、ほぼ以下の紙面構成で発行してきた。

- * 「特集」：本学と地域をつなぐホットな話題
- * 「地域とつながる」：本学の地域連携・地域貢献事業の紹介
- * 「VOICE」：学外者へのインタビューによる本学の取り組みの紹介
- * 「私たちの一步!」：学生による地域貢献活動の紹介
- * 「講座・イベントのお知らせ」：講座・イベント等の告知

これに加えて、第23号(2014年9月発行)からは、新たに「私の研究室」コーナーを設け、本学教員の研究成果を分かりやすい形で地域に発信することとした。

- * 「私の研究室」：本学教員の研究活動・成果の紹介

2010年度からは(第11号以降)、「tobira」という誌名のもと、デザインと内容を一新し、取材・執筆・編集の多くの部分を学外編集者に委託することで内容の充実を図った。2011年度からは(第13号以降)、年3回発行し(2010年度までは年2回)、よりきめ細かい情報発信を行っている。本年度は、年度途中で委託編集者を変更したが、ほぼ定期通り3回(22~24号)発行することができた。

発行部数は各回4000部で、このうち2812部を関係先559箇所へ発送した。内訳は、県関係(46箇所)、市町村(28箇所)、文化施設(55箇所)、県内大学(10箇所)、実習先(病院・福祉機関・幼稚園・保育所等、230箇所)、企業(14箇所)、県内非営利活動法人(53箇所)、県内高校(52箇所)、その他(71箇所)である。

各号の概要は以下の通りである。

(1) ニュースレター「tobira」第22号(2014年6月6日発行)

- * 「特集」：よつびし総研「学生の視点からのまちづくり」 学生の視点から甲府中心街の活性化に取り組む「四菱まちづくり総合研究室(よつびし総研)」の活動について、中心的に活動している学生3名、国際政策学部の熊谷隆一教授にお話を伺った。
- * 「VOICE」：看護学部の文珠紀久野教授がアドバイザーとして参加している学習会(今回は身延町「子どもの心の学習会」)について、参加者の小学校教諭・養護教諭・保健師・ス

クールカウンセラーから、学習会の内容や本学との関わりについてお話を伺った。

＊「講座・イベントのお知らせ」：6月以降に開催予定の講座・イベントの告知を行った。

(2) ニュースレター「tobira」第23号(2014年9月20日発行)

＊「私の研究室」奥水達司特任教授(地域研究交流センター)：「南アルプス形成プロセスの新しい展開～ユネスコエコパーク登録の科学的背景～」と題して、「南アルプス」の地質学的特質や、その形成過程に関する最新の研究成果を紹介していただいた。

＊「地域とつながる」：県立青少年センターで行われている「KIDS ストリートダンス」(子どものためのストリートダンス教室)に、インストラクターとして参加している本学学生の活動を紹介した。

＊「私たちの一歩!」：MOTTAINAI(もったいない) ボランティアサークルとして地域交流や様々なボランティアに取り組んでいる「MOTTAINAI」の活動を紹介した。

＊「講座・イベントのお知らせ」：9月以降に開催予定の講座・イベント等の告知を行った。

(3) ニュースレター「tobira」第24号(2015年2月18日発行)

＊「私の研究室」箕浦一哉准教授(国際政策学部)：「ローカルな環境に耳をすます フィールドから考える環境ガバナンス」と題して、オランダでの在外研究もふまえながら、音を風景と考える「サウンドスケープ」研究を中心に、地域に内在する価値を基盤とした環境づくり・地域づくりに関する研究成果を紹介していただいた。

＊「地域とつながる」：看護学部ひらめき☆ときめきサイエンス 看護学部が毎年行っている、「日本学術振興財団」助成研究の成果を小学校5～6年生・中学生・高校生に伝える啓発活動「ひらめき☆ときめきサイエンス」の講座の中から、昨年開催された「希望をつなぎ、架け橋を育む～東ティモール支援を学ぶ一日講座～」(文珠紀久野教授の企画運営)を紹介した。

＊「私たちの一歩!」：チャリティーサンタ サンタクローズに扮したスタッフが保護者からのプレゼントを子ども達に届ける「チャリティーサンタ」(NPO 法人)の活動について、甲府支部で中心的に活動している本学学生にお話を伺った。

＊「講座・イベントのお知らせ」：3月以降に開催予定の講座・イベント等の告知を行った。

(文責：藤谷秀)

3. ウェブサイトでの情報発信

本学のウェブサイト内に、地域研究交流センターのサイトを置き、センターの概要、生涯学習の案内、地域連携・支援の取り組み、地域研究、刊行物(年報・報告書・ニュースレター等)、活動記録等、各種の情報発信を行っている。特に、生涯学習部門が実施する講座・研修等のイベントに関する情報は、随時タイムリーな情報発信となっている。また、センターが中心となって行った取り組み(講座・イベント・学生優秀地域プロジェクト等)を、そのつど「活動記録」として情報発信している。

(文責：藤谷秀)

生涯学習部門

1. 生涯学習部門事業の概要

平成 26 年度は、以下の講座を実施した。

(1) センター主催事業

地域の方々を対象に大学の教育・研究成果発表、及び県民の方々の知的関心に応えるための講演会や成果報告会を企画・開催した。

- ① 春季総合講座
- ② 観光講座(5 回)

(2) 県民コミュニティカレッジ事業

山梨県大学コンソーシアムとの提携により、広域ベース講座としてバスツアーや地域コミュニティワークショップへの協力と、地域ベース講座として大学の研究成果を分かりやすく伝える講演会の企画運営をした。

- ① 広域ベース講座 (3 回)
- ② 地域ベース講座 (4 回)

(3) 地域連携講座事業

地方自治体の委託を受けて、本学教員が各種講座を企画・実施した。

- ① 日本語日本文化講座 (30 回)
- ② 幼児教育センター月例別講座 (人間福祉学部) (18 回)
- ③ 幼児教育センター月例別講座 (看護学部) (15 回)
- ④ 子育て支援リーダーステップアップ講座 (10 回)
- ⑤ 「やまなしの女性史を学ぶ」講座 (2 回)
- ⑥ 県助産師会研修講座 (2 回)
- ⑦ 穴山町サンマ祭 2014

(4) 学部共催講座事業

各学部学科の特性をいかした講演会・講座・イベント等を担当教員が企画・開催した。

- ① ソーシャルワークセミナー (人間福祉学部)
- ② 保育リカレント講座 (人間福祉学部)
- ③ 健康講座 (看護学部)
- ④ 講演会 (国際政策学部)

2. 生涯学習部門事業の実績と課題について

本年度は 4 区分 15 種類の事業が企画実施された。複数回シリーズで実施される企画が多く、固定参加者も年々増加傾向にある。参加アンケートによると概ね良い評価を得ることができた。これも、生涯学習部門委員をはじめ、各学部の担当教員の尽力と事務局の広報の工夫などの賜物である。

事業の回数や種類が多く、一部の教員に負担が偏る傾向や、開催日の重複など今後の改善課題として取り組みたい。

【生涯学習部門の個別事業】

1. 地域研究交流センター主催事業

(1) 春季総合講座

①テーマ：「よりよく学び生きるために」

②日 時：平成26年6月14日（土） 13:30～16:00

③場 所：山梨県立大学 飯田キャンパス 講堂

④趣 旨：人はいくつになっても、学び続けることで成長し、学び始めるのに遅すぎることはありません。特に大学での学びは、よりよく生きるために、私たちにいろいろなヒントを与えてくれて、生活を豊かにしてくれます。また、よりよく生きるためには、心と体のバランスを保ち、自分自身の健康を整えることも必要です。これから山梨県立大学で学んでみたい方々、興味を持っている方々、もう一度学び直してみたい方々など、この機会に大学を訪れてみませんか？ 賢い話もやわらかに楽しく、子どもから大人まで誰でもお楽しみいただける講座です。

⑤内容：

「大学で学ぶこと」五味武彦（山梨県立大学 理事）



「思春期からの身体感覚をみかくスキルを学ぼう」伏見正江（看護学部教授）



⑥参加者：70名

80%が「今回はじめて参加」で、70%が10代以下の参加者であった。昨年に引き続き、オープンキャンパス前に高校生等を対象に大学を知ってもらう機会として企画したので、従来の

企画より 10 代参加が最も多かった。以下、参加者の感想

- ・生き方について大変参考になりました。学び方、教え方について参考になりました。
- ・めったに聞けない話が聞けてよかったです。
- ・五味先生のご経験にもとづく学びの意味や伏見先生の世界の国々の話やボディワークは若者の世界を広めるきっかけになると思います。
- ・実際に体を動かして学ぶことはすごく良いことだと思いました。

(文責：村木洋子)

(2) 観光講座

1. テーマ：「甲府盆地をとりまく自然と文化」
2. 趣旨：甲府盆地およびその周辺域は四方を山々に囲まれ、盆地と周辺山地との標高差は本邦では最大級です。その点では、やや閉鎖的なイメージもありますが、甲府盆地一帯の自然の仕組みや歴史・文化を紐解きますと、実は地球・宇宙スケールでも誇るべきものが豊富に存在しています。今回の企画においては、甲府盆地および周辺域の自然や文化における新しい価値観の解説に主眼をおきました。
3. 対象：一般県民
4. 講師：梅本智文(国立天文台)・高橋真理子(星空工房アルリシャ)・輿水達司(山梨県立大学特任教授)・根元謙次(東海大海洋学部教授)・深山光也(都留高校教諭)・小野正文(信玄公宝物館館長)・北野芳仁(甲府地方気象台)・北原正彦(日本環境動物昆虫学会)・田中大輔(南アルプス市教育委員会)・新津 健(山梨県埋蔵文化財センター元所長)
5. 日時：第一回：平成 26 年 9 月 7 日(午後 1 時半～午後 4 時半)
第二回：平成 26 年 9 月 28 日(午後 1 時半～午後 4 時半)
第三回：平成 26 年 10 月 12 日(午後 1 時半～午後 4 時半)
第四回：平成 26 年 10 月 19 日(午後 1 時半～午後 4 時半)
第五回：平成 26 年 10 月 26 日(午後 1 時半～午後 4 時半)
6. 場所：山梨県立大学飯田キャンパス講堂
7. 実施状況： 5 回の講演会には、延べ 302 名の参加を数え、平均で 60 名になりました。



これらの参加状況を見ると、多くは一般県民で、しかも、特に動員を促すことなく多くの参加者のあった背景には、一昨年度実施の「富士山の世界遺産講座」や昨年度実施の「南アルプス講座」と同様に、本年度の場合にも、科学的に価値の高い自然・文化が我々の身近にあることが、強い関心を抱かせたのかも知れません。

参加者の感想： *昨年から勉強をさせていただきありがとうございます。新しい分野の勉強で楽しい時間でした。*伊豆半島の本州衝突の痕跡というテーマがおもしろかったが、その調査の大変さに脱帽。大変満足しました。
*もっと大勢の人が聴くことができるシステムを作ったら、もっと啓蒙できると思う。*御嶽山の噴火について、タイムリーに取り上げていただき大変勉強になりました。

なお、昨年同様に今回の講演内容も報告書として本年度中に完成予定で作業を進め、同時に地域研究交流センターホームページには、このPDF版をアップする計画です。今回の観光講座につき、多くの県民がこの企画に関心を持たれ、山梨県立大学に足を運んで頂いた経緯から、今後においてこの企画が県内観光推進の面からも何某かの新しい貢献になれば、と願って実施状況の報告とします。

(文責 輿水達司)

2. 県民コミュニティカレッジ

(1) 広域ベース講座 (3回)

第1回「南アルプスの大地形成一千万年を巡る旅」バスツアー

平成26年11月9日(日) 講師：輿水達司 山梨県立大学特任教授

第2回「もしものときに、みんなで命を守るためには」

平成26年12月7日(日) 13時～17時 山梨県防災新館1階

ゲストスピーカー:塩澤政弘宏 昭和町消防団本部指導部長

コーディネーター：下村幸仁 山梨県立大学人間福祉学部教授

第3回「甲府の未来を語ろう!～学生による未来の甲府市への提言発表会」参加報告

①目的: これからのより良い甲府づくりに向けて、日頃学生が学ぶ専門知識を活かし、甲府市の未来の姿を描くとともに、その実現にむけた方策について学生の視点から考えた提案・提言をする。

②日 時: 平成26年12月14日(日) 13:00～17:00

③場 所: 山梨県防災新館1階 山梨県生涯学習推進センター交流室

④出席者: 80名程度(一般市民の申込者は25名程度、その他は学生・関係者)

⑤主 催: 特定非営利活動法人 大学コンソーシアムやまなし

⑥コメンテーター(甲府市長選候補者3名): 神山 玄太氏(甲府市議会議員)

樋口 雄一氏(前・山梨県議会議員)

宮本 秀憲氏(元・衆議院議員公設秘書)

⑦コーディネーター: 今井 久氏(山梨学院大学 現代ビジネス学部教授)

⑧解 説: 江藤 俊昭氏(山梨学院大学 法学部教授)

⑨実施内容

【1部】 学生による発表6題 (13:00～15:10)

⇒各大学・学科の専門分野に関する発表(各20分)

| | | |
|--------|-------------------|---------------|
| 山梨大学 | 生命環境学部 地域社会システム学科 | 景観について |
| | | スマートシティを目指して |
| 山梨県立大学 | 人間福祉学部 | 子どもの貧困 |
| | 看護学部 | 目指せ、健康寿命の延伸!! |
| 山梨学院大学 | 法学部 政治行政学科 | 自治基本条例について |
| | 現代ビジネス学部 現代ビジネス学科 | マーケティングリサーチ |

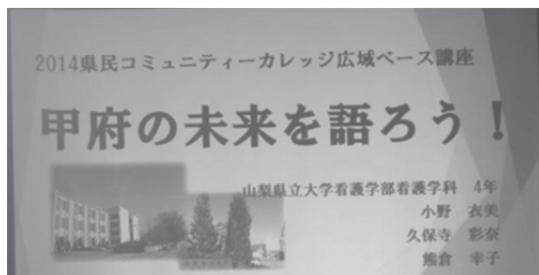
発表後、甲府市長選候補者のコメンテーターより、各講評担当をしていただき各々の発表に対して講評を頂いた。例えば「甲府の少子高齢化の現状やがん検診〈受診率・受診意欲〉にスポットをあて、そこから、健康寿命を伸ばすために必要な“運動・食事・生活”について考えた素晴らしい提言だった。」等のコメントを頂戴した。

【2部】 未来の甲府に向けた「対話」(15:25~16:35)

⇒学生代表者 6名とコメンテーター3名が、甲府の未来についてディスカッションを行った。また、コメンテーターが「心に残った発表」を選定する企画もあり、「健康寿命(県立大学:看護学部),神山氏による選出」・「子どもの貧困(県立大学:人間福祉学部),宮本氏」・「景観(山梨大学),樋口氏」が選ばれた。

⑩全体を通して

学生発表に向け、根拠に裏付けられた発表への準備を行い、またプレゼンテーションも1年生から積み上げてきたスキルを十分に活かしたわかりやすいもので、学生たちの成長を感じた。また、他大学の学生とコラボしたことで、より『専門性』が見えるとともに、複雑かつ多重課題が山積している現代、あらゆる分野の職種と連携しなければ、これらの難問は解決しないことを、学生共々再認識する好機にもつながった。今後、このような企画が継続し、多くの学生が体験することの教育的意義を感じた。



(文責：看護教育学 吉澤千登勢・地域看護学 村松照美)

(2) 地域ベース講座 (全4回)

1. テーマ:『花子とアン』と山梨 ～あなたの生活の身近に繋げて～
2. 講座概要: NHK ドラマ『花子とアン』では、山梨の様々な魅力がうかがえます。この機会に山梨を多方面から探求し、みなさまの毎日の生活が豊かに広がりますよう、一緒に学んでいきましょう。

第1回 ドラマの中の甲州弁

山梨県立大学名誉教授 秋山洋一

第2回 伝えたい 山梨の女性たち

－明治・大正・昭和を生きた さまざまな「花子」たち

山梨県立大学地域研究交流センター特任教授 池田政子

やまなし地域女性史「聞き書き」プロジェクト

第3回 ご近所のお顔の見える関係づくり

山梨県立大学看護学部講師 望月宗一郎

第4回 『花子とアン』のまちづくり

－甲府市での観光振興の試み－

山梨県立大学国際政策学部教授 吉田均

吉田ゼミ学生有志

2. 日時: 第1回 平成26年9月13日(土) 14時～15時半(参加者38名)
- 第2回 平成26年9月20日(土) 14時～15時半(参加者44名)
- 第3回 平成26年9月27日(土) 14時～15時半(参加者30名)
- 第4回 平成26年10月11日(土) 14時～15時半(参加者24名)

3. 場所: いずれも 山梨県立大学 飯田キャンパス サテライト教室

4. 主催: 特定非営利活動法人 大学コンソーシアムやまなし

5. 受講者アンケートから

- ・とても興味深く甲州弁について学びました。ありがとうございました。(第1回)
- ・30年ぶりに講義を拝聴できて嬉しかったです。アナウンサーになりたての頃、標準語の習得に苦勞(特にアクセント等)したことなど懐かしく思い出しました。(第1回)

・山梨県人でない私にとって、山梨に生きた女性の代表として村岡花子を学ぶことは、自分史と併せとても有意義であると思います。今回初めて県立大のコミュニティーカレッジに参加し、大変感動しております。(第2回)

・他の講座とダブってしまい全部の受講ができず残念でした。(第3回)

・本日の望月先生の講座、大変勉強になりました。優しいお人柄にも魅力を感じました。県立大学での講座は興味のある内容をわかりやすく教えていただき、いつも期



待通りです。関係者の方々の心配りも素晴らしいと思います。こんなに気楽に大学での講座を素晴らしい先生方から教えていただけることに感謝しています。今後も続けていただきたいと思います。ありがとうございました。(第3回)

・講座の内容はとてもわかりやすく、学生の発表もあり充実した内容でとてもよかったです。ありがとうございました。(第4回)

(文責：村木洋子)

3. 地域連携講座

(1) 日本語・日本文化講座

- ①目的：甲府市内在住外国人のためのレベル別日本語教室
- ②日時：平成26年6月～平成26年12月までの毎週日曜（13～15時）金曜（19～21時）
- ③場所：山梨県立大学飯田キャンパス サテライト教室、研修室（一部学外）
- ④内容：会話1、会話2、会話3、文字クラス、文化講座「俳句・川柳」「お歳暮」
- ⑤主催：山梨県立大学（安藤淑子准教授）、甲府市
- ⑥実施状況

参加者（延べ）：会話1…31名 会話2…47名 会話3…73名 文字クラス…22名
日本文化講座「俳句・川柳」「お歳暮」…21名

参加者国籍：12か国 <台湾、タイ、中国、ボリビア、インド、フィリピン、ベトナム、アメリカ、カナダ、韓国、ブラジル、日本（帰国子女）>

(文責：村木洋子)

(2) 幼児教育センター月齢別講座



1歳3ヵ月～2歳児クラスを18回受け持った。

看護学部は「育児の気がかり」をテーマとして、対象年齢の保護者向けに、小児看護学領域の教員4名で担当した。人間福祉学部は



甲府市からの依頼を受けて8年目となり、平成26年度は計33回の講座を実施した。看護学部は3ヵ月～1歳3ヵ月未満児クラスを15回、人間福祉学部は

講座は、教員が講師を務める講座と、人間形成学科の学生も参加する交流企画の2つのタイプで実施した。

実施日程、担当者、内容は以下のとおりである。

● 3ヵ月～8ヵ月未満児 (木曜日 10:30～11:30)

- 中央部幼児教育センター 6月19日 (担当講師：井上みゆき教授)
10月30日 (担当講師：井上みゆき教授)
1月22日 (担当講師：井上みゆき教授)
北部幼児教育センター 6月19日 (担当講師：茂手木明美講師)
10月23日 (担当講師：茂手木明美講師)
1月29日 (担当講師：茂手木明美講師)
中道つどいの広場 6月26日 (担当講師：井上みゆき教授)
11月6日 (担当講師：田淵和子准教授)
2月5日 (担当講師：田淵和子准教授)

● 8ヶ月～1歳3ヵ月未満児 (火曜日 10:30～11:30)

- 中央部幼児教育センター 7月1日 (担当講師：茂手木明美講師)
10月28日 (担当講師：井上みゆき教授)
1月27日 (担当講師：井上みゆき教授)
北部幼児教育センター 6月24日 (担当講師：田淵和子准教授)
10月21日 (担当講師：井上みゆき教授)
2月3日 (担当講師：田淵和子准教授)

● 1歳3ヵ月～2歳未満児 (金曜日 10:30～11:30)

中央部幼児教育センター

- 6月20日 《不思議の国の子どもたち》 多田幸子講師
11月7日 《自己尊重のコミュニケーション—子どもも親も自分を大切に—》
池田政子名誉教授
1月23日 《親子で手遊び》 樋口しずか非常勤講師

北部幼児教育センター

- 6月27日 《ようこそ宇宙船地球号へ：国際人への第一歩》 山田千明教授
10月24日 《音楽とコミュニケーション》 村木洋子准教授
2月6日 《不思議の国の子どもたち》 多田幸子講師

中道つどいの広場

- 6月20日 《親子で楽しく身体表現あそび》 高野牧子教授
10月31日 《音楽とコミュニケーション》 村木洋子准教授
2月4日 《自己尊重のコミュニケーション—子どもも親も自分を大切に—》
池田政子名誉教授

● 2歳児 (水曜日 10:30～11:30)

中央部幼児教育センター

- 6月18日《親子で手遊び》 樋口しずか非常勤講師
7月2日《自立を促す脳を育てよう》 坂本玲子教授
10月22日《子どもの「得意」をさがしてみよう》 田中謙講師
11月5日《一緒に遊ぼう (ダンボールで作ったいろいろの道具)》
学生・引率 (池田充裕教授)
1月21日《劇遊び発表会》 学生・引率 (高野牧子教授)
1月28日《手を使った造形遊び》 古屋祥子准教授

北部幼児教育センター

- 6月25日《親子で楽しく身体表現あそび》 高野牧子教授
11月5日《一緒に遊ぼう (ダンボールで作ったいろいろの道具)》
学生・引率 (古屋祥子准教授・田中謙講師)
1月21日《劇遊び発表会》 学生・引率 (古屋祥子准教授)

(文責：村木洋子)

(3) 子育て支援リーダー・ステップアップ講座

①趣旨：平成22年度～24年度に実施した「子育て支援リーダー養成講座」の上級編として、家庭教育・子育てにおける喫緊の課題について講義と実技演習を主体とした学びにより、子育て支援者の資質向上を図り、支援活動を積極的に推進できる人材を養成する。

②主催：山梨県教育委員会社会教育課

実施機関：山梨県立大学 (人間福祉学部人間形成学科)

共催：山梨県立大学地域研究交流センター

連携：山梨県教育事務所 (中北、富士・東部、峡南)

③会場：本学サテライト教室、講堂ほか

④運営：高野牧子教授・池田政子特任教授の企画、コーディネートにより実施。社会教育課及び教育事務所担当者は広報、会場準備、毎回の受講者評価集計などの事務およびグループ研究へのサポートに協力。

⑤プログラム・日程 (別表参照)

毎回、講義、ワークショップ、グループ討論など多様な方法により学習を進めた。ステップアップのために「グループ研究」を導入し、地域を基準に編成された6グループが自主的にテーマを設定して、課題を定め学習・研究を行い、その成果を発表した。「早寝・早起き・朝ごはんで、元気な子」「母親同士が繋がるための支援者の役割」「ママたちの声」「外遊びを楽しもう」「支援センターのあり方～より良い子育て支援をめざして～」「遊びから学ぶ」のテーマで、資料収集、調査・分析・考察、それに基づく実践、成果物の作成とその活用、研究の評価などを行い、最終回に概要の発表を行った。今年度末までに各グループの発表をまとめた「報告書」を作成の予定。

⑥受講者及び修了者

◇参加者総数41名／受講生:33名(学外者)、スタッフ:社会教育課担当者2名、県教育事務所職員4名、本学教職員2名

◇受講生の職種・居住地

| 職種 | 人数 |
|---------------|----|
| ファミリーサポートセンター | 7 |
| 市町村 | 2 |
| 保育所・幼稚園 | 4 |
| 子育て支援センター | 7 |
| 児童館等 | 9 |
| その他 | 4 |
| 合計 | 33 |

| 市町村 | 人数 | 市町村 | 人数 |
|--------|----|-------|----|
| 甲府市 | 6 | 甲州市 | 4 |
| 南アルプス市 | 1 | 笛吹市 | 5 |
| 甲斐市 | 1 | 大月市 | 1 |
| 中央市 | 2 | 市川三郷町 | 3 |
| 昭和町 | 1 | 富士川町 | 1 |
| 韮崎市 | 1 | 身延町 | 1 |
| 山梨市 | 6 | 合計 | 33 |

◇修了者:基準により32名に修了証を授与した。うち、1名は昨年度講座未修了者。

*未修了者は次年度補うことによって修了可能とする。

<別表> SR:サテライト教室 WS:ワークショップ GW:グループ自主研究

| 回 | 日時・会場 | 内 容 | 講師(所属) |
|---|---------------------------|--|------------------------------|
| 1 | 6月13日 (金) SR | 開講式・オリエンテーション テーマ「自分の課題を見つめる」 講義「子育て支援の現在と私たちの課題」、GW① | 池田政子(県立大) |
| 2 | 6月27日 (金) SR | テーマ「家庭教育支援の技術をみがく」 WS「動いて遊んでからだづくり」 GW② | 高野牧子(県立大) |
| 3 | 7月28日 (月) SR | テーマ「発達支援障がいについて学ぶ」 講演とWS「発達障がいの子どもと親への支援」 GW③ | 星山麻木(明星大学教授) |
| 4 | 8月3日 (日) B120 講堂 | テーマ「家族の今」 造形遊びWS「子育て支援と造形」 受講者交流会 シンポジウム「家族の今と私たちの実践」 大矢明美(中央市子育て支援課・家庭相談員) 飯島美紀(山梨市ファミリーサポートセンター・アドバイザー) 中山富貴子(知的障害児通園施設ひまわり園長) | 古屋祥子(県立大) 進行 池田政子(県立大) |

| | | 私の子育て支援紹介(受講者交流) | |
|-----|---------------------|--|---|
| 5 | 8月25日 (月) S R | テーマ「児童虐待とDVについて学ぶ」 講演「子どもの育つ背景としてのDV」 講演「子どもを守る～被虐待児をめぐる」 GW④ | 富士池昌代（女性相談 所相談員） 浅川優子（都留児童相 談所児童虐待対策幹） |
| 6～8 | 8～10月 | GW⑤⑥⑦（各グループで実施） | |
| 9 | 9月22日 (月) S R | テーマ「やまなし『親』学習プログラムの活用」 WS「親学習プログラムを活用してみよう」 GW⑧ | 池田政子（県立大） |
| 10 | 10月24日 (金) 講堂 | 「グループ自主研究発表会」 閉講式 | 池田政子（県立大） 高野牧子（県立大） |

* 毎回、進行とアドバイス等を高野牧子・池田政子及び各教育事務所職員、社会教育課担当者で行った。

⑦参加者からの感想など

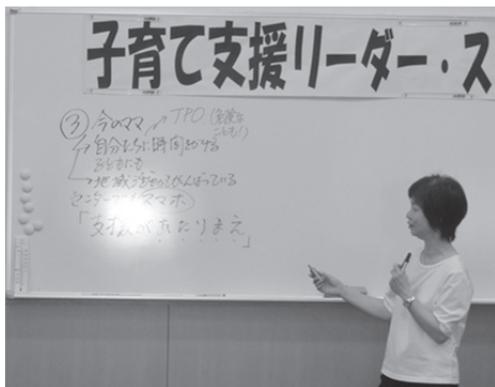
(1) 講座全体の評価 * 1～10回の総集計

| 項目 | 全くそう思う(%) | そう思う(%) | 思わない(%) |
|--------|-----------|---------|---------|
| 内容への興味 | 78 | 21 | 1 |
| 積極性 | 60 | 39 | 1 |
| 分かりやすさ | 72 | 27 | 1 |
| 役立ち度 | 79 | 20 | 1 |
| 新たな知見 | 77 | 21 | 1 |
| 満足度 | 83 | 17 | |

(2) 受講生のコメント (抜粋9)

A. 講座の内容

何よりも、様々な子育て支援の現場で働かれている、プロの先輩方の生の声を聞きながら学べたことが勉強になった。新しい知識、発見が多かった。そして本当に楽しく学べたことで自然と学ぶ意欲につながっていった。／最初は雰囲気になれず、緊張の日々であったが、研修を重ねる事により、受講者の方々と親睦が深められたり、自分が必要とする支援を改めて知る事ができた。／最初、初めて講座へ来たときは、子育て支援に長く携わっていた方が多く、私がここにいるのかと思うこともしばしばあったが、皆さんと話す機会も沢山あり、みんなとても気さくで話しやすく、仕事での悩みなどを聞いてくださり、講座の雰囲気もとても良くて、楽しみながら学んでいくことができてよかった。／興味があったこと、特に障がい児のことはとても勉強になった。これからも積極的に子育て支援にかかわっていきたいと思った。／色々な方向から、子育て、子どもの事、親のことを考える機会になった。また現場に帰って、今回学習したことを生かしていきたいと思う。／どの講座も興味があった。自分の思いを言葉にしたり、様々な考え、思いを知ることができよかった。



B. 役立ち度

とても楽しい講座になった。沢山の財産を手に入れることができよかった。／全講座を通して、私自身の知識が足らず、難しいと感じるときもあったが、これからの仕事に役立つ沢山のことを学ぶことができた。ありがとうございます。／子育て支援者の役割の大きさをあらためて感じている。新制度を自分自身、よく理解し、支援者として活かしていきたい。／職場の都合で2回参加することができず、本当に残念だったが、子育て支援に関する基本的な事や、まわりの状況把握やこれからの制度的なものへの理解など、この講座で学ばせていただいたことをこれからの仕事や人との関わりの中で生かしていけたらと思う。／参加者の方の子育て支援に関わる上で、立場や状況の違いはあっても、根本的な、これからの子育てに関わる者として皆様の熱意を感じ、ただただ感謝するばかりだった。本当に参加させていただき良かった。退職後も参加できる機会があれば、さらにうれしい。／放課後子ども教室での数ヶ月での体験で、この講座を受けさせて頂き、この年で気がつかなかった事とか、初めて知ったことも多々あった。この6ヶ月間の講座での先生方からの教え、幼児と接する年数が多い諸先輩方の教えを、しっかり頭に入れ、今後放課後子供教室に帰り、児童とのふれあいについての接着剤に活かされれば幸せに思う。／普段、ファミリーサポートで子ども達と接しているが、これからサポートの中で、外遊びや絵本の読み聞かせなどをしていきたいと思う。色々な先生方のお話を聞くことができよかった。／色々な研修を受けることができたのは1番良かったが、この機会に色々な方と知り合い、考えに触れたことは、とてもいい経験になった。毎年続けてもらいたい。(園の中の色々な人に参加してもらいたい。)／半年はあっという間だった。スケジュール調整に苦慮しながら参加した甲斐があり、これからの子どもと関わる中で、人との出会いや学びが財産となった。／このような素晴らしい講座に参加できたことにとっても感謝する。学んだことを生かすことが、これからの私の課題だと思う。／各講座、とても勉強になり自分自身を見つめる機会となる事も多かった。県での取り組みだけでなく、各市町村の状況を知る機会にもなった。／初めて継続する研修を受講した。はじめの、傾聴するという事を大切に、たくさん事を学び、考える時間になった。今後自分の課題を見つめ直し、自分の所に戻り、話をし、活かしていけたらと思っている。／改めて知る事、はじめて知る事など、自分の知識が増えたと思う。知識としてだけでなく、今後の支援活動に役立てられるようにしていきたい。／本当にすごくたくさんメンバーと話をした事、とても良い経験ができた。／きれいごとだけでは、とても子育て支援なんてできないんだなと感じた。子どもと楽しく過ごす事は、大切な事の一つ。でもそれ以外にも

考えなければならぬ事がたくさんあり、まだまだ私甘いです。／グループ研修では、自分の、まとめる力が、とても小さい事を認識したが、少しでも自信になり、とても良い経験ができた。／昨年から2年越しになったが、2倍受講でき得たようだった。今年は事例発表という、今までに無い経験をさせていただき、人生最大の勉強をさせていただいた。／子育て支援の責任の重さを感じるとともに、やりがいもたくさん見いだす機会を頂いた研修となった。／もっと積極的に参加できたら良かった。皆さんすごいなと思う事が多々あったが、とても実りのある研修だった。今回学んだ事、感じた事を支援センターへ戻り実践していきたいと思う。

C. グループ研究

同じ目的に関わる（子ども）者達、ひとたびテーマが決まるとスムーズに活動でき、個々の力のすばらしさを感じることができた。／いろいろな立場の支援者の方がいて、それぞれの考え、状況などの意見を聞いて、支援の視野が広がったと感じた。また、支援者同士、情報交換もできたのでよかった。／グループでの活動は、時間もなく、集まる日も少なく大変だったが、密な交流ができて大変ながらも楽しさも感じた。／グループでの話し合い、また講義等、楽しく勉強させていただきました。／全講座に参加できずに残念だった。グループの方と仲良くできうれしく思う。／自分達の研究のために、たくさんの勉強ができ、子育て支援のあり方、多くの方の考え方を聞くことができたことも、自分の勉強になった。



D. 事務局のまとめ

- ・アンケートは、どの項目についても「全くそう思う」という回答が多かった。中でも「役立ち度」「満足度」は高く、講座開催の意義があったとともに、最終回については、特に肯定評価が多く、良い方向でまとめることができてよかった。
- ・単に講師の講義を聴くというのではなく、自分の考えや疑問をもって講義を聴くことによって、さらに自分のものとして身につけることができたと思われる。
- ・新しく学んだ言葉を積極的に使ったり、学んだことを実践しようとする意欲が感じられた。
- ・毎回講義の最後の振り返り用紙には、多くの方が「だからこうしていきたい・・・」という、意欲や向上心が伺える文書を書いており、学んだことが次に繋がっていくことがわかった。
- ・グループ研究は、最初は、知らない者同士、何を研究するかの意見もそれぞれであったために、取りかかるまでに時間を要した。しかし、自分の勤務状況、悩みや意見を出し合うことにより、次第に課題が見えてきた様子であった。まとめには、大変なご苦勞をされたと思われるが、自分の班の取り組みについて、自信をもって、また満足感を感じながら発

表されている様子がかがえた。

- ・グループの仲間と、親しみをもって接しており、グループでの研修は、地域でのネットワークづくりに、つながっていけると思われる。
- ・どの班も、研究のまとめ方、発表の仕方について工夫されている様子がかがえた。
- ・自ら熱心に研究したこともあり、他のグループの発表も、しっかり聞いているために、自分の考えをもってコメントをしたり、自分の知識としている点を伺うことができた。

(文責：池田政子・高野牧子)

(4) 山梨県助産師会研修講座

- ①趣旨:助産師として子どもの育ちとジェンダーの関係について、必要な知識・考え方を学ぶ。
- ②主催:社団法人山梨県助産師会
連携:山梨県立大学地域研究交流センター
- ③対象:山梨県助産師会会員15名(本学看護学部教員1名を含む)
- ④日時
第1回:2014年10月4日(土曜) 13時30分～15時00分
第2回:2014年11月1日(土曜) 13時30分～15時00分
- ⑤会場:山梨県立大学地域研究交流センター サテライト教室
- ⑥講師:池田政子(県立大学地域研究交流センター特任教授)
- ⑥実施状況(講義とワークショップ)



第1回 「ジェンダーってなに? ～女の子だからと不自由を感じたりあきらめたりしたことはありませんか～」

〔 ジェンダーとは/私自身のジェンダー・アイデンティティを意識する/男女共同参画社会と子育て/「男だから～、女だから～」を続けていると、どうなるでしょう? 〕

第2回 「“男らしさ/女らしさ”から“自分らしさ”へ

～子育てをスタートする親に関わる専門職として心がけたいこと～

〔 子どもたちはどのようにジェンダー化するのか/大人たちの意識の中に残っている「女の子は～、男の子は～」/子どもたちの姿/「保育」に求められていること/ジェンダー・メッセージについて意識しよう/自分を大切にできるセクシュアリティ形成のために 〕

⑦参加者からの感想など

自分も小さい頃から、ジェンダー・バイアスの中で自覚もなく成長してきたのですね。対応の差にずるいな～と思うことはあったことを思い出しました。/自分の今まで生きてきた中で、女だからと言う理由で我慢してきたことがとても多かったと分かりました。その原因が勉強できて、自分の娘にもジェンダー・メッセージを送っていたと気づきました。ジェンダーを考えることは、人間として助産師と

してとても大切なことと思いました。これからも勉強していきたいと思えます。／日々の何げない一言の積み重ねが、人となりを作ってゆくことを感じました。／看護学校で母性看護学概論を教えることとなり、セクシュアリティをもう一度学び直しています。その中で先生の講座を聴いて、ジェンダーという考え方、概念が整理できました。そして自分のジェンダー意識を見つめ直し、まだこんなことを思っていたんだと気づかされました。／講義がわかりやすく、自分の考えを常にこれでいいのだろうかと認識する重要性を教えられ、とても充実感に満たされました。

(文責:池田政子)

(5) 「やまなしの女性史を学ぶ」講座

- ①趣旨:山梨の女性の歴史を掘り起こし、記録することの意義や方法について、地域女性史の視点から学び、また県民の関心を高めるための公開研究会として実施。本年で9年目となる。
- ②主催:山梨県立男女共同参画推進センターぴゅあ総合
共催:山梨県立大学地域研究交流センター・やまなし地域女性史「聞き書き」プロジェクト
- ③日時 第1回:2014年11月9日(日曜) 13時30分～16時00分
第2回:2014年11月29日(土曜) 13時30分～16時30分
- ④会場:山梨県立女共同参画推進センターぴゅあ総合
- ⑤講師、実施状況

第1回 「差別をなくして美しき生涯をめざそう! ——戦後女性教師の待遇と改善に挑んで」
講師:上田京子さん(元山教組及び日教組女性部長、全国退職女性教職員の会会長)
古屋敏子さん(元山教組女性部長、山梨県退職女性教職員の会会長)
コーディネーター:吉原五十鈴子(元山梨県男女共同参画推進センター館長)



第2回 「証言集 第2集」刊行記念講座

- 基調講演「等身大の女性像を描くことの意味 ——「樺美智子」の検証を例に」
講師:江刺昭子さん(女性史研究者・ノンフィクション作家)
- シンポジウム「地域女性史研究の意義と課題 ——私たちの活動をふり返って」
シンポジスト:亀井喜美子(さがみ女性史研究会さねさし代表)
山中淑子(やまなし地域女性史「聞き書き」プロジェクト事務長)
- コメンテーター:江刺昭子

コーディネーター：池田政子（県立大・やまなし地域女性史「聞き書き」プロジェクト代表）



⑥参加者 第1回：43名、第2回：26名

⑦参加者からの感想など

●満足度：第1, 2回とも、アンケート回答者の全員が「満足」または「まあ満足」と回答。

●受講感想

山梨県の女性史についてよくわかりました。私たちがかかえている問題社会の問題等、改めて考えました。難しい課題がたくさんありますが、少しでも解決していけたらと思います。／とても良い内容の講座でした。民間企業から見ると教員は恵まれている部分が多いと思いますが、未来を創る子どもたちを育てる立場だからこそ、人権、平等について他をリードするものでなければならないと思います。そういう社会をさらに充実させて欲しいと思います。／上田先生、古屋先生のお話し素晴らしかったです。女性管理職登用についてのお話はぜひ、40歳代の若い先生方にも聞いて欲しいと感じました。有意義な会をありがとうございました。／初めて知ることも多くあり、大変勉強になりました。男性として当たり前と思っていることが実は見方を変えるとそうでないことがあるということを改めて感じました。／女性の歴史を知る事ができる。樺美智子さんに興味があったので参加しました。伝説を知る事が出来て良かったです。この本も読みました。今日は江刺さんの話が聞けて大変良かったです。



（文責：池田政子）

（6）穴山町サンマまつり

（1）テーマ：山梨から考える東北被災地支援～葦崎市穴山地区と気仙沼市鹿折（ししおり）地区の交流を通じて～

（2）日時：2014年10月17日10:00～15:00

(3) 場所：穴山町ふれあいホールおよび旧穴山小学校体育館

(4) 参加人数：12名（国際政策学部総合政策学科1、2年生）

(5) 来場者数：約400名

(6) 内容：韮崎市穴山地区の住民の皆さんと協力して、気仙沼市のサンマを食べながら震災を語るイベントに学生と教員が参加し被災地支援と地域の未来をともに考えた。活動を通して先の東日本大震災によって甚大な被害を受けた被災地の被害の現状と復興への課題をまなび、被災地が直面している課題を、日本の地方圏の地域経済の特徴を踏まえて理解するとともに、復興のためにどのような支援が可能か、また災害と隣り合わせで生きる日本社会が安心して生活できる場所であるにはどのような要件が求められるかを考えた。

本企画は、国際政策学部のサービスラーニングの授業と連動しており、学生は、授業の一環として主催者（穴山町サンマ祭り2014実行委員会）の清水俊弘さんの事前講義を受講して被災地の現状や活動の意義を学んだ。イベント当日は裏方として祭りを支えるとともに宮城県気仙沼市の震災後の状況報告会（NPO法人日本国際ボランティアセンター）への参加、気仙沼市鹿折地区の伝統芸能「小々汐（こごしお）太鼓」の観賞および気仙沼から訪れた被災者を含む来場者との交流を通じて、被災地の現状を学び、山梨から被災地を支援することの意義を感じた。

学生は、イベント終了後にレポートを作成し、活動を通じて得た気づきや、活動の意義について自分の考えをまとめた。



事前学習の様子



おいしいサンマに舌鼓

（文責：二宮浩輔）

4. 学部共催講座

(1) ソーシャルワークセミナー（人間福祉学部）

(1) テーマ：「アメリカのグループワークの基本と実践」

(2) 講師：クルーム・洋子氏

（元ノースカロライナ州立大学機構准教授・エイジングライフコンサルタント）

(3) 日時：平成27年1月15日（木） 15:00～17:30

(4) 場所：山梨県立大学飯田キャンパス 講堂

(5) 参加人数：55名

(6) 内容：ソーシャルワーク方法論の一つであるグループワーク論は、高齢者の介護予防活動から子育て支援の当事者活動まで様々な場面で応用できる。本セミナーでは、アメリカの実践的教育法より講義（80分）と小グループ演習（60分）により学んだ。

(7) 参加者アンケート（抜粋）：

- ①グループワークの理論と実際を学ぶことができた（良くできた+だいたいできた）→96%
- ②実践現場でのグループワークの活用について考える機会になった（同上）→98%
- ③日ごろの仕事や学習を見直し、今後の活用に役立った（同上）→98%
- ④自由意見：ファシリテーションの研修と共通点が多い・ファシリテーターとして頭ではわかっている技術や対応も実際に行うとうまくできないことが多く反省・グループワークの取り組み方が変わった・日頃から考えをより具体化していく必要性を感じた等。



(文責：神山裕美)

(2) 第7回保育リカレント講座（人間福祉学部）

- ①会の名称：第7回保育リカレント講座「発達障害児の支援ワークショップ～理論と実技～」
- ②会の主体：主催（人間福祉学部人間形成学科）・共催（地域研究交流センター）
- ③開催日時：2015年1月31日（土）10：00～12：00
- ④開催場所：飯田キャンパス 講堂
- ⑤参加人数：総計 65名（内訳） 学生 35名、教員 7名、職員 0名、学外者 23名
- ⑥内容概要

山形大学教職大学院教授の三浦光哉先生をお招きして、発達障害の子どもたちへの対応について学んだ。講師の三浦光哉先生は、特別支援教育、障害児指導法がご専門で、長く発達障害の子どもたちの診断と支援に携わっている。前半は講義形式で、乳幼児期における発達の問題や小1プロブレムなどのテーマごとに詳しく解説いただいた。後半は、子どもたち一人一人の個性を尊重しつつ、発達を促す方法を具体的なワークショップを交えて学ぶ機会を得た。参加者が小グループに分かれ、カルタなど具体的な遊びをとおして、適切な指導や支援について実践した。

⑦学外参加者からのご意見・ご要望

・発達障害という大きなくくりだけでなく、子どもの特徴に合わせた関わり方や支援の方法を知ることができた。特にQ&Aは、自分の疑問がたくさん解決できて良かった。現

在2歳児を担当しているので進級に向けて保護者に伝え連携して発達支援を行っていき
るよう頑張りたい（保育所関係者）

・日常生活では臨機応変な対応やトラブルなどが多く、対応に困る場面も日常茶飯事
である。本日学んだ各障害の知識・保護者との対応の仕方・担任との連携・「気質」→「障
害」にならないためのその児童にあった支援の仕方など、とても勉強になった。ワーク
ショップはとても面白く学ぶ楽しさを再認識できた。ありがとうございました（小学校
特別支援教育支援員）



（文責：村木洋子）

（3）健康講座「いのちのコール」（看護学部）

1. テーマ

映画『いのちのコール』のメッセージ

～家族・友人 そして あなた自身から～

【設定理由】

平成23年1年間の子宮がんによる死亡数は6,075人、乳がんに至っては、1万2,731人である。がんへの対策は、定期健診や定期的なセルフチェックでの早期発見が重要であることは周知されてはいる。しかし、なかなかその行動に結びつかない方が多い。そこで、子宮頸がんの告知そして治療、死に直面していく“ミセス インガ”という映画の主人公を通して、がんの早期発見の重要性、その友人・家族のあり方、そして、病気に向き合うなかで、『生きる』ということ、参加者と共に考えていく。

2. 実施日： 平成26年12月21日（日）13:00 受付 開催時間 13:30～16:10

3. 場所： 公立大学法人 山梨県立大学 看護学部 講堂

4. 対象者： 地域住民、県立大学教職員及び学生

5. 実施状況：参加者：17名

13:30～15:00 映画上映「いのちのコール～ミセス インガを知っていますか～」

15:00～15:50 講演

「女性の健康力 ～子宮がんの予防にむけて～」

山梨県立大学看護学部 母性看護学 教授 伏見正江

「自分のからだの主人公になろう！高校生との対話を通して感じたこと」

山梨県立大学看護学部看護学科学生 石原匠・勝山裕美

（ヘルスプロモーションクラブ所属）

15:50～16:10 質疑応答

参加者は、実話から作成された映画をとおして、予防活動の重要性を相互に確認していた。さらに講義において、

専門知識や実態及び今後のヘルスプロモーションに乗った活動の重要性を学んだ。また中学・高校生に行っている本学生のピアカウンセリング活動に対して、

「中学生等に伝えることで難しいと感じる事、またその工夫」、「どの科目として、授業時間を取っているのか」

「どのようにしたら、中学校等の授業で時間を確保で



きるのか」「大人に対してどのように感じているか」等多くの質問が寄せられ、若い人々を対象とする予防活動の重要性についても学ぶことができた。会場においては、参加者間で今後の活動の連携を約束する場ともなり有意義な機会となった。しかしながら、参加者が少なく「もったいない」という声も上がり、今後について継続的に取り組む意義や企画検討への課題が残った。

(文責：村松照美・城戸口親史)

(4) 地域研究交流センター・国際政策学部共催講演会

「異文化理解～中国の怪異（妖怪）と説話～」

第1回

2015年1月14日（水）午後1時～2時30分

題目 「怪異・妖怪から見る中国社会史」

講師 佐々木聡（東北大学東北アジア研究センター研究員）

会場 A館606教室

司会 名和敏光（国際政策学部准教授）

第2回

2015年1月21日（水）午後1時～2時30分

題目 「怪異がお話になるとき—六朝志怪の世界」

講師 佐野誠子（和光大学表現学部准教授）

会場 A館サテライト教室

司会 名和敏光（国際政策学部准教授）

要旨：東アジアの前近代史をひもとけば、たちまち怪異や妖怪の記事に行き当たる。神々や幽霊、そして物の怪たちは、決して小説や戯曲の世界だけでなく、当時の社会を生きる人々にとって、ある種のリアリティーを持った存在であった。そして、それは現代的な「オカルト」とは一線を画す、社会通念としての意味を持っていた。今回の講演では、中国の漢～唐五代までの文献や図像資料を中心に、こうした怪異・妖怪をめぐる集合表象の在り方を探った。



（文責：名和敏光）

地域研究部門

1. 地域研究部門の事業概要

地域研究交流センター（以下センター）では、地域の現代的ニーズを踏まえた課題解決につながる研究、地域文化の発掘と活用、地域文化の創造につながる研究、地域に貢献する特色ある教育に関する研究を、3学部・研究科の教員から参加を募り、研究事業を実施している。研究事業には、センターが重点的に取り組む必要があると認め、複数学部の教員が参加するプロジェクト研究と、それ以外で地域貢献に資する共同研究がある。

本部門はこの事業の実施のために、企画、募集、選考、予算決定を行い、研究進捗管理、報告書作成、研究報告会開催などを行った。

2. 地域研究部門事業の実績と課題

今年度のセンター共同研究・プロジェクト研究は当初応募が少なかったため、学長の指示のもと募集期間を延長したところ9件の応募があって、また、いくつかの研究は学長プロジェクトとして移行し「山梨県の長期ビジョンに関する研究」の一環として行われることとなり、最終的には以下の7件が採択された。

- (1) 双方向型の高大連携による地域資源を活かした授業モデルの構築
- (2) 地域の公立学校におけるタブレット端末利用上の課題に関する研究
- (3) 山梨県の小学校における「外国語活動」の効果的運営に関する実践的研究
- (4) やまなし地域女性史「聞き書き」プロジェクト
—「聞き書き証言集第3集」の刊行に向けて—
- (5) 医療従事者の認知症対応能力向上に向けての取り組み
—地域中核病院看護職者を対象とした「認知症対応能力向上」研修会の企画と評価—
- (6) 小学生とその親を対象とした「いのちの学習会」の効果
- (7) 外国につながるのある就学前児童のためのプレスクール構築に向けて

共同研究・プロジェクト研究により生じた成果について、研究手法の妥当性、目標に対する達成度その他当該成果の地域貢献への妥当性について検証するため、従来の「地域研究交流センター地域研究事業評価基準」を踏まえて「山梨県立大学地域研究交流センター研究評価の実施体制」を策定した。それによると、評価にあたっては「外部委員」の導入が明示され、評価委員会の構成は、「学長、理事（教育・研究担当）、地域研究交流センター長、地域研究交流センター地域研究部門長、外部委員（1～2名程度、依頼は以上の者に任せる）」となり、また、評価結果の反映については、「共同研究・プロジェクト研究の代表者が評価を受けた研究の研究期間に引き続いて応募した研究を審査するにあたっては、その採否を判断する際の参考とする」ことにする。

【地域研究部門の個別事業】

1. 地域研究事業（共同研究・プロジェクト研究）

（1）双方向型の高大連携による地域資源を活かした授業モデルの構築

1) 研究目的

高等学校教育の質の保証、大学教育の質的転換という本来高大連携に求められる観点から、大学として高校での人材育成にどのように働きかけを行うのが適当なのか、高校で行う授業のモデルを構築する。同時に、他校、特に大学から離れた地域にあっても応用が可能で、かつ負担をできるだけ軽減して継続的な関係を維持することも目指す。

2) 研究内容と成果

上記の目的に照らし、実施にあたっては、次の内容を取り入れる。

①大学側の教員が高校まで移動する負担を軽減し、大学から高校までの距離が実施にあたって支障となることがないように、できる限りテレビ会議システムにより講義を実施する。

②単発の講義ではなく、高校の教員とも連携して達成目標等を明らかにしたうえで授業計画を作成する。同時に、授業には大学教員のみならず高校側の教員も適宜参加する。

③講義実施にあたっては、大学教員だけではなく、学生もファシリテーターとして授業に参加し、生徒への指導の一端を担ってもらう。

④最終的な成果としては、高校生が身延町等へ政策提言を行う。

また、実施期間は3年を予定し、初年度である今年度は、まずテレビ会議システムを利用した授業スタイルの経験値を獲得する。それとともに、5～6回程度を目処として身延高校を中心とした峡南地域における地域振興を考えることができる人材を育成するとの目標に対し授業計画（シラバス）を作成し、成果と課題について検証する。

成果は以下の通りである。

①連携授業（5回）の実施

②山梨県立大学地域研究交流センター研究報告会における成果発表

3) 研究メンバー

研究代表者：吉田均（国際政策学部）

共同研究者：張兵・八代一浩・二宮浩輔（国際政策学部）、深沢守・近藤学・五味哲矢・橋本昌樹（山梨県立身延高等学校）、萩原章司・矢ノ下健司（山梨県教育庁新しい学校づくり推進室）

（2）地域の公立学校におけるタブレット端末利用上の課題に関する研究

1) 研究目的

これまで協調型 edutab システムの開発研究を行ってきた。このシステムを地域の公立学校で利用するには下記のような課題がある。

①地域の教育委員会によって無線 LAN の利用ができない場合がある。

②iPad は個人が利用することを前提としているが、公立学校では児童が共有する。

この課題を解決することを本研究の目的とした。

2) 研究内容と成果

上記の課題を解決するために、下記の3つの研究目標を掲げ、それぞれに対応するシステムの構築を行った。

- ①無線 LAN の収容者数の改善
- ②WebDAV サーバを利用したファイル共有システムの構築
- ③edutab を利用した画像共有システムの開発

研究成果は以下の通りである。

研究会報告（2件）

①「タブレット型端末を利用した同期型 CSCL による協同学習の効果に関する研究～edutab を用いた算数科「少数」の実践を通して～」、古屋達 朗、水落芳明、八代一浩、水越一貴：平成 26 年度第 4 回日本科学教育学会研究会、日本科学教育学会、信州大学、Vol. 29, No. 4, 2015 年 2 月 28 日

②「授業支援のための授業実施・評価支援システムの開発」大塚 舞、水越 一貴、渡辺喜道、八代一浩 情報処理学会研究報告、コンピュータと教育研究会報告 2015-CE-129(8), 1-6 (2015-03-14)

研究紀要（指導案 4 件）

フォーラム・ワークショップ発表（2 件）

3) 研究メンバー

研究代表者：八代一浩（国際政策学部）

共同研究者：池田充裕（人間福祉学部）、奥山賢一・増坪広夫（甲斐市立竜王小学校）、久保田勲・雨宮友成・中村英彦（山梨県総合教育センター）

（3）山梨県の小学校における「外国語活動」の効果的運営に関する実践的研究

1) 研究目的

平成 23 年度よりすべての小学校で「外国語活動」が必修化されて以来、3 年を経過したが、東京オリンピック開催を 6 年後に控えた今、小学校英語は徐々に教科へとシフトされつつある。「外国語活動」は、児童の英語コミュニケーション能力の素地を育成することを目指しており、これに対する期待と注目度はさらに大きいものとなってきた。文部科学省からだけでなく、児童の保護者や地域からも様々な要望が寄せられている一方で、ほとんどの指導者は英語教育や英語科教授法研究の経験を持たない。しかしながらカリキュラムの作成と運営は各学校において必須とされ、学級担任の主導で「外国語活動」を運営しなければならないため、現場では多くの教諭がいまだに非常に大きな戸惑いや負担を感じている。また、「外国語活動」の研究拠点校とそうでない学校とでは教員研修の機会の格差もあり、より充実した「外国語活動」を広く実現するためには解決すべき課題が多く存在している。この研究プロジェクトでは、現状を踏まえて、山梨県内の小学校における「外国語活動」の効果的運営を実現するための研究を行い、成果を広く提供することを目的とする。

2) 研究内容と成果

具体的な研究内容には3つの柱があり、1つ目は、「外国語活動」の指導者を対象とする研修プログラムを研究・構築し、小学校教諭のためのセミナーおよびワークショップを開催す

ることである。これについては平成 26 年 11 月 10 日の勉強会で検討し、27 年 1 月 7 日セミナーを実施するに至った。受講者には大変好評であった。2 つ目として、地域の小学校外国語活動の教育現場での授業および活動サポートを行なった。甲斐市の竜王西小学校と連携して、学生を派遣して行った活動は 13 日間に及んだ。来年度以降もぜひ取り組みを続けてほしいと先方から依頼があるなど、この取り組みも大変好評であった。3 つ目の柱として取り組んだのは、地域に合った教材の作成である。文部科学省では、「外国語活動用の教本」以外に各地域の地域性を反映した教材の使用を奨励している。子どもたちに地域の文化歴史を理解させると同時に、今後想定される地域の国際化に対応するために有用と思われる英語教材（「英語で楽しもう！山梨の民話」）を作成した。26 年度内に県内の各小学校に配布する。3 つの柱として掲げた研究目標についてはおおむね順調に達成することができた。

3) 研究メンバー

研究代表者：高野美千代（国際政策学部）

共同研究者：石田一元（甲斐市立竜王西小学校）、伊藤ゆかり・Peter Mountford（国際政策学部）、池田充裕（人間福祉学部）

（4）やまなし地域女性史「聞き書き」プロジェクト

—「聞き書き証言集第 3 集」の刊行に向けて—

1) 研究目的

今年度は、本プロジェクト（2005 年度開始）の第 3 期 1 年目と位置付け、『「聞き書き」証言集 伝えたい山梨の女性たち 第 3 集』の刊行（2017 年予定）に向けての聞き取り調査、公開研究会、研究成果の発信、研究資料の蓄積を行った。

2) 研究内容と成果

研究成果の地域への発信と還元

①「山梨近代史の会」例会での発表（2 回）会場：山梨県立大学

7 月 16 日「地方選挙に挑戦した女性たち」小野鈴枝・中沢勝子・相澤正子

12 月 17 日「内藤ますと 3 人の県外女性たち（荻野吟子・田中かく・設楽りう）」山中淑子

②平成 26 年度県民コミュニティ・カレッジの本学講座『「花子とアン」と山梨』の第 2 回「伝えたい 山梨の女性たち ——明治・大正・昭和を生きたさまざまな「花子」たち」を担当し、これまでのプロジェクトの研究成果を含めて講演した（池田政子）。

③その他、「甲府西ロータリークラブ」第 1917 例会での講演（2014 年 5 月 22 日）、「ぴゅあ総合フェスタ 2014」での展示（2014 年 9 月 5～6 日）など 10 年間の活動成果を発信した。

第 9 回「やまなしの女性史を学ぶ」の実施（公開研究会：ぴゅあ総合との連携講座の 9 年目）

①11 月 9 日「差別をなくして美しき生涯をめざそう！：戦後女性教師の待遇と改善に挑んで」

②11 月 29 日 基調講演「等身大の女性像を描くことの意味：「樺美智子」の検証を例に」
シンポジウム「地域女性史研究の意義と課題：私たちの活動を振り返って」

資料による研究

①村岡花子の「甲府時代」と山梨の女性たち：村岡花子が甲府に在住した明治20年代後半および大正期前半について、山梨の女性たちの動向を『山梨女性史ノート』の記事より抽出・分析した。この結果の一部を上述「県民コミュニティ・カレッジ」の講座の中で報告した。

②山梨近代における女性教師の状況と待遇について：『山梨女性史ノート』より、明治から昭和前期までの女性教師の待遇等に関する記事を抽出し、年表の再構成資料（データベース）を作成し、それをもとに女性教師の待遇等について概観した。

聞き取り調査による個人史の蓄積

『証言集 第3集』の刊行に向け、詩人、医師、図書館司書、料理研究家、教員組合や男女共同参画、平和運動などの活動をされてきた計8人の女性に関して聞き取りを行い、「聞き書き」制作に向けた基礎資料である「個人史年表」を作成した。

3) 研究メンバー

研究代表者：池田政子（地域研究交流センター）

共同研究者：伏見正江（看護学部）・吉原五鈴子（県立男女共同参画推進センター元館長）

山中淑子（劇団さくらっ子：男女共同参画推進グループ）・三科恵美子（山人会副会長）

研究協力員：藤本ひろみ・清水武子・佐々木文子・久保川正美・立川聖子・小野鈴枝・古明地喜代美・鈴木因子・相澤正子・中沢勝子・櫻井をさみ・清水絹代・伊藤真理・八巻美弥子

(5) 医療従事者の認知症対応能力向上に向けての取り組み

一地域中核病院看護職者を対象とした「認知症対応能力向上」研修会の企画と評価一

1) 研究目的

医療従事者の認知症対応力向上を図るための基礎資料に資するため、A 県内の地域中核病院である B 病院の看護職者を対象に、認知症対応力向上を目的とした研修会を企画・実施・評価し、今後の課題を明らかにする。

2) 研究内容と成果

本研修会は、国の認知症施策等総合支援事業の1つである「認知症地域医療支援事業」（3事業）の1つに位置付けられている。標準的なプログラムが平成26年7月に老健局長通知で示されたが、我々は先行研究（※1・2参照）の知見を踏まえ本研修会の実施を計画していたため、対象病院の特性や先行研究の成果を反映させ、全2回シリーズの研修会を3回（計6回）実施した。なお、B病院の意向を聴取し、多くの看護師が2回とも受講できるよう、病院内の会場で平日の日勤終了後に実施した。本企画の評価の為、各研修会の終了時に、アンケート調査を行った。

研修会の延参加者は353名、その約8割が研修①と研修②を受講した研修修了者であり、「オレンジプラン」（1病院8名）の数値目標を大幅に上回る結果となった。開催場所・時間の設定が、多くの受講につながったものとする。また、対象者の9割以上が「研修内容を

理解できた」「研修会に満足している」「研修会は今後の看護に活用できる」と回答していたことから、対象者のニーズに合った研修会であったと評価でき、地域中核病院の多くの看護師の受講により、地域全体への波及効果が期待できる。

※1：小山尚美・流石ゆり子・渡邊裕子他：一般病棟で集中的な医療を要する認知症高齢者のケアにおける看護師の困難～大規模病院(一施設)の看護師へのインタビューから～, 日本認知症ケア学会誌, 第12巻第2号, 408-418, 2013.

※2：小山尚美・流石ゆり子・渡邊裕子他：中規模病院の一般病棟で認知症高齢者のケアを行う看護師の困難, 日本老年看護学会誌, Vol. 17 No. 2, 65-73, 2013.

3) 研究メンバー

研究代表者：流石ゆり子（看護学部）

共同研究者：渡邊裕子・小山尚美・森田祐代・萩原理恵子・渡邊輝美（看護学部）、植田美由紀・飯野みゆき・雨宮麻美子（山梨県立中央病院）、久保田正春（日下部記念病院認知症疾患医療センター）、中島朱美（人間福祉学部）、伏見正江・依田純子・狩野英美（看護学部看護実践開発研究センター）

研究協力者：上田美穂・横田恵子（長寿社会課）

(6) 小学生とその親を対象とした「いのちの学習会」の効果

1) 研究目的

「いのちの学習会」に参加した小学生とその親の自尊感情の変化、受講後、家庭においてどのような会話をしたいと考えているか、さらには、親の「いのちの学習会」に対する評価を明らかにし、「いのちの学習会」の効果を検討する。

2) 研究内容と成果

山梨県内の小学校19校を対象として調査を実施した。調査は小学生の性別、学年、自尊感情の変化、いのちの学習会後の家庭での話題、感想等の自由記載、また保護者に対しては、性別、年齢、自尊感情の変化、いのちの学習会の評価、家庭での会話内容と自由記載とした。2年生17校820人、4年生2校135人、保護者は840人のうち、2年生819人(99.9%)、4年生135人(100%)、保護者795人(94.6%)が回答した。

質問に対し、「すごく思うようになった」「強く思うようになった」を1点、「変わらない」を0点とすると、2年生では 9.11 ± 1.61 、4年生では 8.90 ± 1.83 、保護者は 8.36 ± 2.83 となった。2年生の回答を質問項目別にみると、「生まれてきてよかった」、「自分の命を大切にしていきたいと思った」、「自分のことを大切だと思う」、「自分とは別の人の命も大切だと思う」、「自分とは別の人も大切だと思う」、「あなたを大切に思ってくれる人がいると思う」、「あなたを大切にしてくれる人にありがとうといいたいと思う」の7つで、「すごく思うようになった」との回答が男女とも90%を超えていた。さらに女子では「自分のことをわかってくれる人がいると思う」も90%以上となった。4年生では「生まれてきてよかったと思う」、「自分の命を大切にしていきたい」、「自分以外の命も大切だと思う」、「自分以外の人も大切にしたい

と思う」、「自分を守ってくれる人に感謝している」について、男女ともに90%以上が「すごくそう思うようになった」とした。さらに女子では、「自分は大切な存在だと思う」、「自分を理解してくれる人がいると思う」、「自分を必要としてくれる人がいると思う」でも90%以上が同様に回答した。また「今の自分でよいと思う」では、女子の方が「すごくそう思うようになった」が多かった(P=0.022)。保護者では、「強く思うようになった」と回答したのは、女性で「自分以外のいのちも大切だと思う」90.2%、男性では「自分の命を大切にしていきたい」86.6%であった。また「生まれてきたことはすばらしい」、「自分の存在はかけがえのないもの」、「自分自身を大切にしてほしい」「自分以外の人も大切にしてほしい」について90%以上の人が子どもに内容が伝わったと評価していた。

また、児童・保護者ともに、「いのちの大切さ」や「自分(子ども)が生まれた時の話し」「家族への感謝」について家庭で話しをしたいと考えていた。

以上の結果から、いのちの学習会は子どもの自尊感情を高めるだけではなく、参加した保護者の自尊感情を高めることに効果的であったと考える。

3) 研究メンバー

研究代表者：名取初美(看護学部)

共同研究者：平田良江・萩原結花・伏見正江(看護学部)、榊原まゆみ・佐藤和子・井上裕子(山梨県助産師会)

(7) 外国につながるのある就学前児童のためのプレスクール構築に向けて

1) 研究目的

プレスクールは、就学前に、異なる文化的背景をもつ子どもたちとその親の、日本の学校生活、学校文化への適応を促す取組みである。山梨県内では、外国につながる子どものためのプレスクールは初の試みとなる。本プロジェクトの目的は、山梨県内で任意団体が実施するプレスクールを専門分野からの知見を反映させて構築することである。

2) 研究内容と成果

プレスクールは、山梨県内で初の試みであるばかりでなく、全国的に見ても新しい取組みと言える。2006年に愛知県は、プレスクール事業を始め、プレスクール実施マニュアルおよび実施報告書を公開し、その普及に努めているが、当然のことながら、異なる市町村が一様に実施することは困難である。また、小学校の教育と密接なかわりがあるため、教育委員会の理解と関わりが不可欠であるばかりでなく、外国につながる子どもの日本語能力や文化的・社会的・経済的背景についての知見をもつ者が関わる必要がある。プロジェクト代表および共同研究者は、任意団体「多文化社会の保健医療を考える会 JUNTOS」によるプレスクールの企画から実施に至るまで、コーディネーターとして関わった。

まず、2日間にわたるプレスクール指導者・ボランティア養成講座の企画・調整を行った。そこで養成した指導者を採用したプレスクール(11月から1月まで10回シリーズ)の企画・調整をした。プレスクール実施に当たっては、毎回、子どもたちの状況や指導について観察し、随時アドバイスをを行った。また、保護者会を中心になって実施した。プレスクール初回時の保護者会では、子どもたちの言語選択、言語環境の整備について指導した。最終回時の保護者会に先立ち、中央市教育委員会を通して小学校の校長・教頭・日本語指導者から外国につながるのある子どもに関する聞き取りを行い、保護者会で保護者に助言をした。さらに、

保護者の入学直前の不安を軽減するため、3月に任意団体の協力を得て、プロジェクトとしてのプレスクールと保護者会を1回限りであるが開催した。

プレスクール指導者養成講座およびプレスクールの試行を通して、中央市教育委員会を巻き込み、プレスクールへの関心を喚起できたこと、今後のプレスクール構築に向けた問題点が把握されたことは、大きな成果であると言える。また、大学の教員が関わることにより、山梨県庁国際交流課、(公財)山梨県国際交流協会がプレスクールに注目し、多文化共生推進協議会および外国籍の住民との意見交換会で、プレスクールに関する講演を研究代表者に依頼した。これにより、小学校の教員、市町村や国際交流課以外の課、そして外国籍の住民の関心も多少なりとも喚起できたことは、今後のプレスクールの広がりにつながる。これは、プロジェクトとして大きな成果と言えよう。

研究としては、学問的研究ではなく実践研究としての位置づけになる。この成果は、2015年日本語教育学会春季大会のパネルディスカッションで発表の予定。

3) 研究メンバー

研究代表者：長坂香織（看護学部）

共同研究者：萩原孝恵（国際政策学部）・奥村圭子（山梨大学）

企画は全研究者3名が担当。各々の主たる担当は、長坂が全体の調整および教育委員会との折衝、萩原が日本語指導およびプレスクール各回の助言。

(以上7件の研究報告の文責は各研究代表者)

2. 研究報告会

2014年度の研究報告会が、2015年3月24日（火）13:00～17:00に飯田キャンパスA館6階サテライト教室で行われた。7つの研究事業が発表され、総数で138人の参加があった。活発な質疑応答が行われ、充実した報告会であった。

アンケートは、「多様な分野の研究をお伺いできましたこと、よかったですと思います」など高く評価されている一方、「地域や専門機関の人たちが大勢参加できるようにコマーシャルをしてほしい」との意見もあった。今後は研究事業をさらに発展させると同時に、学内外へ広く発信することが必要であると思われる。

(文責：張兵)

戦略・開発部門

1. 戦略・開発部門事業の概要

(1) 外部資金獲得業務

各種補助金、助成金や委託事業などの情報を収集し、学内に広報する。あわせてそれらの外務資金が獲得しやすいような環境を学内に整備していく。本年度は、下記の改編案の検討を実施した。

(2) 山梨県立大学地域研究交流センター組織改編案の検討

平成 29 年度「地（知）の拠点による地方創生推進事業（以下、大学 COC 事業と省略）」の終了に伴い、地域研究交流センターは、大学 COC 事業の成果を引き継ぎ発展させることとなる。そのため地域研究交流センターでは、大学 COC 事業を運営する地域戦略総合センターの業務を統合するため、組織の改編（案）を 1 年かけて検討してきた。

平成 26 年度第 11 回運営委員会（2015 年 3 月 18 日）で、本部門が策定した「山梨県立大学地域研究交流センター組織改編案」が、同センター案として了承された（下記参照）。あわせて 2015 年 4 月に、学内各学部・地域戦略総合センターに同案を提案し検討を開始することも承認された。

2. 山梨県立大学地域研究交流センター組織改編案（2015 年 3 月 18 日）

1、概要

- (1) 平成 29 年度「地（知）の拠点による地方創生推進事業（以下、大学 COC 事業と省略）」の終了に伴い、山梨県立大学地域研究交流センターが大学 COC 事業の成果を引き継ぎ発展させることで、山梨県における知の拠点となることを目指す。
- (2) そのため地域研究交流センターは、大学 COC 事業を運営する旧地域戦略総合センターの業務を統合するため、組織の改組を行う。その際、新たなセンター内に、フューチャーセンター、生涯学習センター、地域総合戦略センターの 3 つのサブセンターを設置する。
- (3) 以上を通じて、次の 2 点の研究教育における改革を推進する。
 - A) 山梨県立大学および地域研究交流センターの地域貢献事業を、学術的・教育的視点を活かして、地域のニーズに応えるための機能を強化する。
 - B) 山梨県立大学の地域貢献を、学生と教職員が主体的・積極的に参加する教育及び研究活動として展開させることで、本学の人材育成能力を向上させる。

2、組織の改編案

(1) 地域研究交流センター運営委員会

1) 概要

- A) 最高意思決定機関として統合後の新センターの運営と山梨県立大学研究教育審議会への業務報告を行う。業務は、本センターの運営委員会と大学 COC 事業の学内連絡会議の業務を引き継ぐ。
- B) 新たに設置するフューチャーセンター、生涯学習センター、地域総合戦略センターの 3 つのサブセンターの連絡調整・協議機関とする。

- C) サブセンターごとにサブセンター長を任命し、同人を地域研究交流センターの副センター長として任命する。
- D) 運営委員会は、センター長と副センター長（サブセンター長）および運営委員を構成メンバーとする（2月～3月/1回程度）。各サブセンターの運営と日常業務は、各サブセンターに権限移譲する。

2) 事務局職員

- A) 事務局職員は、旧地域研究交流センターに配属されている正職員1名と臨時職員1名を充てる。

(2) フューチャーセンター

1) 業務内容

- A) 旧地域研究交流センターの交流支援部門と情報発信部門、大学COC事業の旧フューチャーセンターを引き継ぎ、行政・民間・NPOなどとの対話窓口とする。特に協定を締結した自治体・民間団体との定期協議を重視する。
- B) 副センター長（サブセンター長）、各学科の専任教員を加え組織する。あわせて大学COC事業での知見を活かすため、旧地域戦略総合センターのディレクターも構成員に加える。交流事業は、従来のセンター委員による事業から、全学教員を対象とした交流事業に転換する。
- C) センター全体のニューズレターの発行と、大学ホームページでの情報発信を行う。ニューズレターは、紙媒体からSNSを含む電子媒体に情報発信手段を移行できるか否か検討する。
- D) そのほかセンター全体の活動記録である「地域研究交流センター年報」の作成を行う（1回/年）。

2) 事務局職員

- A) 事務局職員は、旧地域研究交流センターに配属されている正職員1名と臨時職員1名を充てる（地域研究交流センター運営委員会担当者と兼務）。

(3) 生涯学習センター

1) 業務内容

- A) 旧地域研究交流センターの生涯学習部門の事業と、大学COC事業で実施した市民向け公開講座などの事業を引き継ぐ。
- B) あわせて従来の各学部で実施する高大連携事業、社会人向け教育講座、専門職の再教育講座、学部連携講座などを支援する。
- C) 大学コンソーシアムやまなしから依頼される、他大学と連携した地域向け公開講座を実施する。
- D) 副センター長（サブセンター長）、各学科の専任教員を加え組織する。

2) 事務局職員

- A) 事務局職員は、旧地域研究交流センターに配属されている正職員1名と臨時職員1名を充てる（地域研究交流センター運営委員会担当者と兼務）。

(4) 地域総合戦略センター

1) 業務内容

- A) 旧地域研究交流センターの地域研究部門と戦略開発部門の事業と、大学 COC 事業で実施した地域志向教育研究などの事業を引き継ぐ。本部門は、地域研究交流センターの 2 名の特任教授（旧地域戦略総合センターディレクター）と、各学科の専任教員を加え組織する。
- B) 旧地域研究交流センターの共同研究・プロジェクト研究と、大学 COC 事業の地域志向教育研究のコンセプトを継承し、教員による地域研究から、教職員・学生による教育活動の要素を持った研究教育事業に重点を移す。
- C) 上記のほか、外部の受託・助成事業などによる地域志向教育研究の充実を図る。
- D) あわせて必要に応じて他大学と共同で受託・助成事業（研究）に応募できるようにするため、大学コンソーシアムやまなしなどを通じた、他大学との連携受託機能を持たせる。

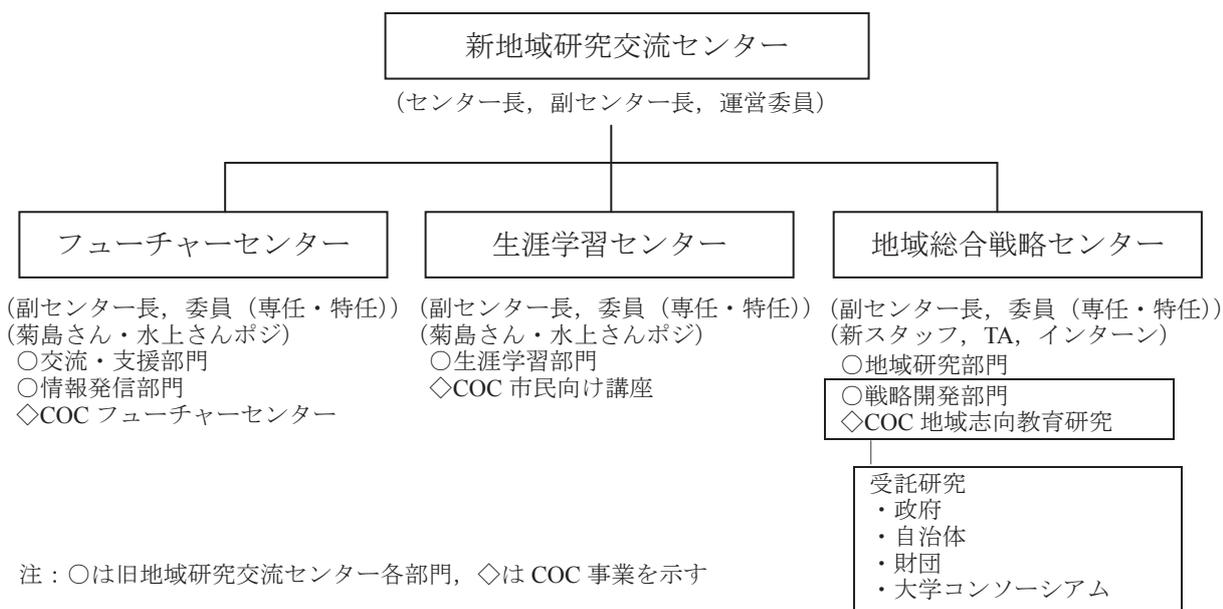
2) 事務局職員

- A) 受託事業を継続するため、専任の臨時雇用職員を新たに 1~2 名配置する（旧地域戦略総合センターのコーディネーターよりの採用を優先する）。
- B) その給与は、同サブセンターの受託事業の収益を充てる。
- C) そのほか必要に応じて、長期の学部生インターンを配置する。国際政策学部・人間福祉学部での大学院設置後は、大学院生によるインターンやティーチングアシスタントを配置する。以上の必要経費は、受託研究の収益より捻出する。

3、その他

- (1) 旧地域戦略総合センターのディレクター以外の特任教授は、旧地域研究交流センターでの業務内容のまま維持する。

組織図



注：○は旧地域研究交流センター各部門，◇は COC 事業を示す

事務局

1. 運営委員会記録

1. 第1回 平成26年4月17日（木）

主な協議・報告事項：COCとの連携強化に伴う部門委員の再配置について／平成26年度予算について／平成26年度共同研究・プロジェクト研究公募について／観光講座2014について／平成26年度子育て支援リーダー・ステップアップ講座について／『「聞き書き」証言集 伝えたい 山梨の女性たち 第2集』の刊行について／平成26年度春季総合講座について

2. 第2回 平成26年5月14日（水）

主な協議・報告事項：部門委員の再配置について／平成26年度共同研究・プロジェクト研究について／観光講座2014の企画について／授業開放講座の科目数の増加について／「教員の地域貢献活動」支援申請について／平成25年度業務実績報告について／平成26年度春季総合講座について／2013年度センター年報の発行について／平成26年度高大連携事業計画の進捗状況について

3. 第3回 平成26年6月18日（水）

主な協議・報告事項：平成26年度共同研究・プロジェクト研究について／授業開放講座の科目数の増加について／教員の地域貢献活動について／平成26年度春季総合講座実施報告／県民コミュニティーカレッジについて／ニューズレターNo. 22 発行について／高大連携事業について

4. 第4回 平成26年7月16日（水）

主な協議・報告事項：平成26年度共同研究・プロジェクト研究採択結果について／授業開放講座の科目数の増加について／センター連携講座について／ニューズレターNo. 23の企画内容について／平成26年度甲府市池田地区総合防災訓練について

5. 第5回 平成26年9月10日（水）

主な協議・報告事項：戦略開発部門の再開について／公開講座の広報活動について／ホームページの更新について／教員の地域貢献活動について／平成26年度健康講座について／平成26年度県民コミュニティーカレッジについて／観光講座2014について／平成26年度甲府市池田地区総合防災訓練の実施報告／平成26年度「やまなしの女性史を学ぶ」講座について／平成26年度保育リカレント講座について

6. 第6回 平成26年10月15日（水）

主な協議・報告事項：戦略開発部門の再開について／教員の地域貢献活動について／平成26年度後期授業開放講座の応募状況について／平成26年度年度計画について／やまなし地域女性史「聞き書き」プロジェクトチーム受賞について／ニューズレターNo. 24 発行について

7. 第7回 平成26年11月19日(水)

主な協議・報告事項：ニュースレター発行業務受託者について／センター特任教授プロフィールのHP掲載について／リポジトリへの共同研究・プロジェクト研究報告書の掲載について／共同研究・プロジェクト研究の評価体制の準備について／授業開放講座の今後の対策について／学生優秀地域プロジェクトの公募について／来年度予算について／国際政策学部共催講演会について／平成26年度子育て支援リーダー・ステップアップ講座実施報告／山梨県助産師会研修会実施報告／観光講座実施報告

8. 第8回 平成26年12月17日(水)

主な協議・報告事項：平成27年度予算申請について／学生優秀地域プロジェクトについて／COCとの統合に向けた検討について／研究報告会と研究評価の実施体制について／ニュースレターNo24の作業状況について／日経グローバル記事について／「やまなしの女性史を学ぶ」実施報告

9. 第9回 平成27年1月21日(水)

主な協議・報告事項：学生優秀地域プロジェクトについて／研究報告会と研究評価の実施体制について／学生表彰のセンター推薦候補について／善光寺ご開帳臨時バスに関わる学生ガイドについて／観光講座2014報告書作成について／センター年報について／ソーシャルワークセミナー2014実施報告／看護学部健康講座実施報告／県民コミュニティーカレッジ広域ベース講座実施報告

10. 第10回 平成27年2月19日(木)

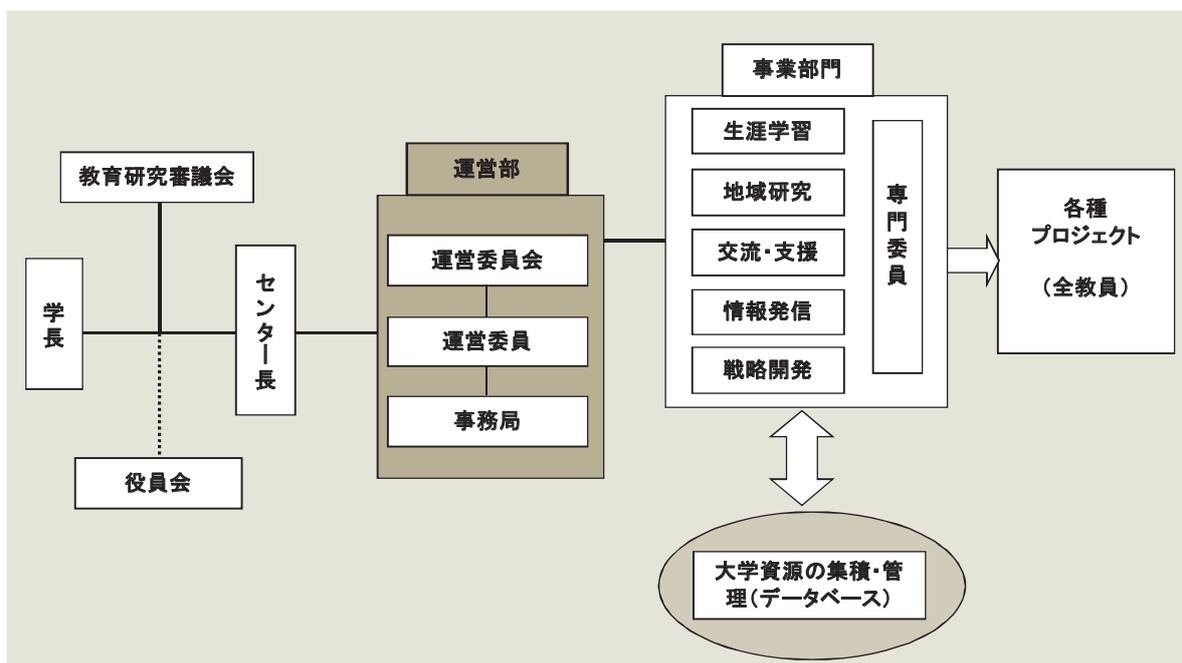
主な協議・報告事項：平成27年度計画について／学生優秀地域プロジェクトについて／高校からの高大連携依頼について／COCとの統合案について／地域研究交流センター研究報告会について／研究評価の実施体制について／新大学案内地域研究交流センター紹介ページについて

11. 第11回 平成27年3月18日(水)

主な協議・報告事項：特任教授の再契約について／地域研究交流センター組織改編案について／地域研究交流センター研究報告会について／研究評価の実施体制について／授業開放講座受講料の変更について／平成27年度計画について／池田地区健康まつり参加報告

2. 組織図・委員名簿

(1) 組織図



(2) 委員名簿

| | 総合政策学科 | 国際コミュニケーション学科 | 福祉コミュニティ学科 | 人間形成学科 | 看護学科 | 特任 |
|---------------------|----------------------|---------------|---------------------|-----------------------|--------------|----------------|
| 地域研究交流センター 運営委員会 | 箕浦一哉 玉井亮子 二宮浩輔 | ●吉田均 張兵 | 藤谷秀 神山裕美 青柳暁子 | 村木洋子 | 村松照美 小林美雪 | 輿水達司 池田政子 |
| 事業部門 (専門委員) | 交流・支援 | 箕浦一哉 | 平野和彦 | ◎青柳暁子 柳田正明 川池智子 | 渡邊裕子 | |
| | 情報発信 | ○二宮浩輔 | 張兵 | ◎藤谷秀 | 古屋祥子 | 小尾栄子 |
| | 生涯学習 | 玉井亮子 | 高野美千代 | 神山裕美 | ◎村木洋子 | ○村松照美 城戸口親史 |
| | 地域研究 | | ◎張兵 | | | 小林美雪 輿水達司 |
| | 戦略開発 | 玉井亮子 | ◎吉田均 | 神山裕美 | | 渡邊裕子 |
| 特別担当 | 看護・福祉専門職支援コーディネーター | | 神山裕美 川池智子 | | 渡邊裕子 | |

運営委員は専門委員を兼務 ●センター長 ◎部門長 ○副部門長

下線 運営委員以外の専門委員

3. 地域研究交流センター委員一覧

(* 運営委員)

| 学部 | 学科 | 氏名 | 専門領域 |
|----------------|---------------|--------|-----------------|
| 国際政策学部 | 総合政策学科 | 箕浦 一哉* | 環境社会学 |
| | | 玉井 亮子* | 政治学、行政学 |
| | | 二宮 浩輔* | 環境経済・政策 |
| | 国際コミュニケーション学科 | 吉田 均* | 国際開発、国際協力 |
| | | 張 兵* | 中国史、中国経済、アジア事情 |
| | | 高野 美千代 | イギリス文学、イギリス文化 |
| | | 平野 和彦 | 中国近代文化論 |
| 人間福祉学部 | 福祉コミュニティ学科 | 藤谷 秀* | 倫理学、哲学 |
| | | 神山 裕美* | 社会福祉(社会福祉援助技術論) |
| | | 青柳 暁子* | 介護福祉(生活支援技術) |
| | | 柳田 正明 | 知的障害者福祉、地域生活支援 |
| | | 川池 智子 | 社会福祉原論、児童・障害児福祉 |
| | 人間形成学科 | 村木 洋子* | ピアノ実技、ソルフェージュ |
| | | 古屋 祥子 | 美術、彫刻 |
| 看護学部 | 看護学科 | 村松 照美* | 地域看護学 |
| | | 小林 美雪* | 成人看護学 |
| | | 渡邊 裕子 | 老年看護学 |
| | | 城戸口 親史 | 成人看護学 |
| | | 小尾 栄子 | 地域看護学 |
| 地域研究交流センター特任教授 | | 輿水 達司* | 地質学、地下水学 |
| | | 池田 政子* | 心理学、ジェンダー研究 |

資料 1. 年間の時系列記録

| 年 月 日 | 事業・行事名 | 部門名 |
|------------|---------------------------------|------|
| 2014年4月17日 | 第1回地域研究交流センター運営委員会 | |
| 2014年4月17日 | 第1回生涯学習部門会議 | 生涯学習 |
| 2014年4月18日 | 前期授業開放講座受講申込み締切 | 生涯学習 |
| 2014年5月13日 | 第1回情報発信部門会議 | 情報発信 |
| 2014年5月14日 | 第2回地域研究交流センター運営委員会 | |
| 2014年5月14日 | 第2回生涯学習部門会議 | 生涯学習 |
| 2014年5月20日 | 地域研究交流センター2013年度年報発行 | 情報発信 |
| 2014年6月6日 | 日本語・日本文化講座(1) | 生涯学習 |
| 2014年6月6日 | 地域研究交流センターニューズレター「tobira」第22号発行 | 情報発信 |
| 2014年6月8日 | 日本語・日本文化講座(2) | 生涯学習 |
| 2014年6月11日 | 第2回情報発信部門会議 | 情報発信 |
| 2014年6月13日 | 日本語・日本文化講座(3) | 生涯学習 |
| 2014年6月13日 | 子育て支援リーダー・ステップアップ講座 | 生涯学習 |
| 2014年6月14日 | 春季総合講座 | 生涯学習 |
| 2014年6月15日 | 日本語・日本文化講座(4) | 生涯学習 |
| 2014年6月18日 | 第3回地域研究交流センター運営委員会 | |
| 2014年6月18日 | 幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)(1) | 生涯学習 |
| 2014年6月19日 | 幼児教育センター月齢別講座(看護学部)(1)(2) | 生涯学習 |
| 2014年6月20日 | 日本語・日本文化講座(5) | 生涯学習 |
| 2014年6月20日 | 幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)(2)(3) | 生涯学習 |

| | | |
|------------|----------------------------|------|
| 2014年6月22日 | 日本語・日本文化講座(6) | 生涯学習 |
| 2014年6月24日 | 幼児教育センター月齢別講座(看護学部)(3) | 生涯学習 |
| 2014年6月25日 | 幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)(4) | 生涯学習 |
| 2014年6月26日 | 地域研究事業(プロジェクト研究・共同研究)選考委員会 | 地域研究 |
| 2014年6月26日 | 幼児教育センター月齢別講座(看護学部)(4) | 生涯学習 |
| 2014年6月27日 | 日本語・日本文化講座(7) | 生涯学習 |
| 2014年6月27日 | 子育て支援リーダー・ステップアップ講座 | 生涯学習 |
| 2014年6月27日 | 幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)(5) | 生涯学習 |
| 2014年6月29日 | 日本語・日本文化講座(8) | 生涯学習 |
| 2014年7月1日 | 幼児教育センター月齢別講座(看護学部)(5) | 生涯学習 |
| 2014年7月2日 | 幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)(6) | 生涯学習 |
| 2014年7月4日 | 日本語・日本文化講座(9) | 生涯学習 |
| 2014年7月6日 | 日本語・日本文化講座(10) | 生涯学習 |
| 2014年7月11日 | 日本語・日本文化講座(11) | 生涯学習 |
| 2014年7月13日 | 日本語・日本文化講座(12) | 生涯学習 |
| 2014年7月15日 | 第3回情報発信部門会議 | 情報発信 |
| 2014年7月16日 | 第4回地域研究交流センター運営委員会 | |
| 2014年7月18日 | 日本語・日本文化講座(13) | 生涯学習 |
| 2014年7月20日 | 日本語・日本文化講座(14) | 生涯学習 |
| 2014年7月28日 | 子育て支援リーダー・ステップアップ講座 | 生涯学習 |
| 2014年8月3日 | 子育て支援リーダー・ステップアップ講座 | 生涯学習 |
| 2014年8月25日 | 子育て支援リーダー・ステップアップ講座 | 生涯学習 |

| | | |
|-------------|---------------------------------|-------|
| 2014年8月31日 | 甲府市池田地区総合防災訓練への参加・協力(看護学部) | 交流・支援 |
| 2014年9月7日 | 観光講座(1) | 生涯学習 |
| 2014年9月10日 | 第5回地域研究交流センター運営委員会 | |
| 2014年9月12日 | 子育て支援リーダー・ステップアップ講座 | 生涯学習 |
| 2014年9月13日 | 県民コミュニティーカレッジ(地域ベース講座)(1) | 生涯学習 |
| 2014年9月20日 | 地域研究交流センターニュースレター「tobira」第23号発行 | 情報発信 |
| 2014年9月20日 | 県民コミュニティーカレッジ(地域ベース講座)(2) | 生涯学習 |
| 2014年9月22日 | 子育て支援リーダー・ステップアップ講座 | 生涯学習 |
| 2014年9月27日 | 県民コミュニティーカレッジ(地域ベース講座)(3) | 生涯学習 |
| 2014年9月28日 | 観光講座(2) | 生涯学習 |
| 2014年10月1日 | 第4回情報発信部門会議 | 情報発信 |
| 2014年10月3日 | 後期授業開放講座受講申込み締切 | 生涯学習 |
| 2014年10月4日 | 山梨県助産師会研修講座(1) | 生涯学習 |
| 2014年10月5日 | 日本語・日本文化講座(15) | 生涯学習 |
| 2014年10月11日 | 県民コミュニティーカレッジ(地域ベース講座)(4) | 生涯学習 |
| 2014年10月12日 | 観光講座(3) | 生涯学習 |
| 2014年10月15日 | 第6回地域研究交流センター運営委員会 | |
| 2014年10月17日 | 日本語・日本文化講座(16) | 生涯学習 |
| 2014年10月18日 | 穴山町サンマ祭り2014 | 生涯学習 |
| 2014年10月19日 | 日本語・日本文化講座(17) | 生涯学習 |
| 2014年10月19日 | 観光講座(4) | 生涯学習 |
| 2014年10月21日 | 幼児教育センター月齢別講座(看護学部)(6) | 生涯学習 |

| | | |
|-------------|-------------------------------|------|
| 2014年10月22日 | 幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)(7) | 生涯学習 |
| 2014年10月23日 | 幼児教育センター月齢別講座(看護学部)(7) | 生涯学習 |
| 2014年10月24日 | 日本語・日本文化講座(18) | 生涯学習 |
| 2014年10月24日 | 子育て支援リーダー・ステップアップ講座 | 生涯学習 |
| 2014年10月24日 | 幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)(8) | 生涯学習 |
| 2014年10月26日 | 日本語・日本文化講座(19) | 生涯学習 |
| 2014年10月26日 | 観光講座(5) | 生涯学習 |
| 2014年10月28日 | 幼児教育センター月齢別講座(看護学部)(8) | 生涯学習 |
| 2014年10月29日 | 第3回生涯学習部門会議 | 生涯学習 |
| 2014年10月30日 | 幼児教育センター月齢別講座(看護学部)(9) | 生涯学習 |
| 2014年10月31日 | 日本語・日本文化講座(20) | 生涯学習 |
| 2014年10月31日 | 幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)(9) | 生涯学習 |
| 2014年11月1日 | 山梨県助産師会研修講座(2) | 生涯学習 |
| 2014年11月5日 | 幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)(10)(11) | 生涯学習 |
| 2014年11月6日 | 幼児教育センター月齢別講座(看護学部)(10) | 生涯学習 |
| 2014年11月7日 | 幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)(12) | 生涯学習 |
| 2014年11月9日 | 県民コミュニティーカレッジ(広域ベース講座) | 生涯学習 |
| 2014年11月9日 | 「やまなしの女性史を学ぶ」講座(1) | 生涯学習 |
| 2014年11月12日 | 第5回情報発信部門会議 | 情報発信 |
| 2014年11月14日 | 日本語・日本文化講座(21) | 生涯学習 |
| 2014年11月16日 | 日本語・日本文化講座(22) | 生涯学習 |
| 2014年11月19日 | 第7回地域研究交流センター運営委員会 | |

| | | |
|-------------|-------------------------------|------|
| 2014年11月26日 | 地域研究部門会議 | 地域研究 |
| 2014年11月28日 | 日本語・日本文化講座(23) | 生涯学習 |
| 2014年11月29日 | 「やまなしの女性史を学ぶ」講座(2) | 生涯学習 |
| 2014年11月30日 | 日本語・日本文化講座(24) | 生涯学習 |
| 2014年12月5日 | 日本語・日本文化講座(25) | 生涯学習 |
| 2014年12月7日 | 日本語・日本文化講座(26) | 生涯学習 |
| 2014年12月7日 | 県民コミュニティーカレッジ(広域ベース講座) | 生涯学習 |
| 2014年12月12日 | 日本語・日本文化講座(27) | 生涯学習 |
| 2014年12月14日 | 日本語・日本文化講座(28) | 生涯学習 |
| 2014年12月14日 | 県民コミュニティーカレッジ(広域ベース講座) | 生涯学習 |
| 2014年12月17日 | 第8回地域研究交流センター運営委員会 | |
| 2014年12月17日 | 第6回情報発信部門会議 | 情報発信 |
| 2014年12月19日 | 日本語・日本文化講座(29) | 生涯学習 |
| 2014年12月21日 | 健康講座 | 生涯学習 |
| 2014年12月21日 | 日本語・日本文化講座(30) | 生涯学習 |
| 2014年12月25日 | 第1回戦略開発部門会議 | 戦略開発 |
| 2015年1月14日 | 国際政策学部共催講演会(1) | 生涯学習 |
| 2015年1月15日 | ソーシャルワークセミナー2014 | 生涯学習 |
| 2015年1月20日 | 第7回情報発信部門会議 | 情報発信 |
| 2015年1月21日 | 第9回地域研究交流センター運営委員会 | |
| 2015年1月21日 | 国際政策学部共催講演会(2) | 生涯学習 |
| 2015年1月21日 | 幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)(13)(14) | 生涯学習 |

| | | |
|------------|---------------------------------|-------|
| 2015年1月22日 | 幼児教育センター月齢別講座(看護学部)(11) | 生涯学習 |
| 2015年1月23日 | 学生優秀地域プロジェクト選考委員会 | 交流・支援 |
| 2015年1月23日 | 幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)(15) | 生涯学習 |
| 2015年1月27日 | 第2回戦略開発部門会議 | 戦略開発 |
| 2015年1月27日 | 幼児教育センター月齢別講座(看護学部)(12) | 生涯学習 |
| 2015年1月28日 | 学生優秀地域プロジェクト認定式 | 交流・支援 |
| 2015年1月28日 | 幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)(16) | 生涯学習 |
| 2015年1月29日 | 幼児教育センター月齢別講座(看護学部)(13) | 生涯学習 |
| 2015年1月31日 | 保育リカレント講座 | 生涯学習 |
| 2015年2月3日 | 幼児教育センター月齢別講座(看護学部)(14) | 生涯学習 |
| 2015年2月4日 | 幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)(17) | 生涯学習 |
| 2015年2月5日 | 幼児教育センター月齢別講座(看護学部)(15) | 生涯学習 |
| 2015年2月6日 | 幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)(18) | 生涯学習 |
| 2015年2月17日 | 第8回情報発信部門会議 | 情報発信 |
| 2015年2月17日 | 第3回戦略開発部門会議 | 戦略開発 |
| 2015年2月18日 | 地域研究交流センターニュースレター「tobira」第24号発行 | 情報発信 |
| 2015年2月19日 | 第10回地域研究交流センター運営委員会 | |
| 2015年3月1日 | 甲府市池田地区健康まつりへの参加・協力(看護学部) | 交流・支援 |
| 2015年3月16日 | 第4回戦略開発部門会議 | 戦略開発 |
| 2015年3月17日 | 地域研究部門会議 | 地域研究 |
| 2015年3月18日 | 第11回地域研究交流センター運営委員会 | |
| 2015年3月24日 | 2014地域研究交流センター研究報告会 | 地域研究 |



日本で生活する外国人のための 日本語・日本文化講座

For foreigners living in japan
Japanese language and culture course
外国人生活在日本、日本語学習文化課程
일본에서 생활하는 외국인을 위한 일본어 일본문화 강좌
Para os estrangeiros que vivem no japao Curso de lingua e cultura japonesa
Para los extranjeros que viven en japon Curso de lengua y cultura japonesa

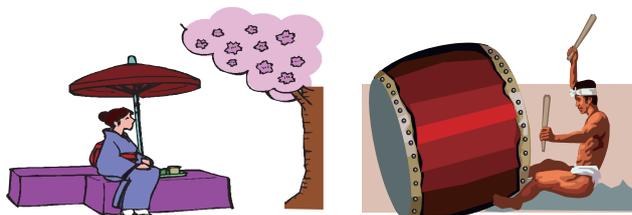
| | 金曜(夜)クラス | 日曜(昼)クラス |
|----------------------------|---|---|
| 時間 | 午後7時～9時 | 午後1時～3時 |
| レベル | 会話1 (入門) | 会話2 (初級) 会話3 (初中級) 文字クラス (漢字と語彙クラス) |
| 講座日 | [6月] 6, 13, 20, 27日 [7月] 4, 11日 | [6月] 8, 15, 22, 29日 [7月] 6, 13日 |
| ※講座日は 変更になる 場合があります。 | 18日(文化講座「俳句・川柳」) [10月] 17, 24, 31日 [11月] 14, 28日(文化講座「お歳暮」) [12月] 5, 12, 19日 | 20日(文化講座「俳句・川柳」) 10月: 5, 19, 26日 11月: 16, 30日(文化講座「お歳暮」) 12月: 7, 14, 21日 |
| 受講料 | 無料 ※教材料は自己負担 (2,000円～3,000円) | |
| 駐車場 | あり | |

お問い合わせ ☎
やまなしけんりつだいがく
山梨県立大学
がくむが
学務課 055-224-5260

しゅさい やまなしけんりつだいがく こうふし
主催: 山梨県立大学 / 甲府市

れんけい そりだりだ にほんごきょうしつ
連携: ソリダリダー日本語教室

※受講にあたり、事前申請は不要です。



2014 .

2014 春季総合講座

よりよく学び
生きるために



人はいくつまでも学び続けることで成長し、
学び始めるのに遅すぎることはありません。
特に大学の学びは、よりよく生きるために、私たちにいろいろなヒントを与えてくれて、生活を豊かにしてくれます。
また、よりよく生きるためには、心と体のバランスを保ち、自分自身の健康を整えることも必要です。
これから山梨県立大学で学んでみたい方々、興味を持っている方々、
もう一度学び直してみたい方々など、この機会に大学を訪れてみませんか？
堅い話も軟らかく楽しく、子どもから大人まで誰でもお楽しみいただける講座です。

●内容

1 「大学で学ぶこと」

講師:五味武彦 山梨県立大学 理事

2 「思春期からの身体感覚をみかくスキルを学ぼう」

講師:伏見正江 看護学部 教授(母性看護学)

開催日時・場所

平成26年6月14日(土曜日) 午後1時30分~4時(開場1時)
山梨県立大学飯田キャンパス(甲府市飯田5-11-1)講堂

参加申し込み

電話(055-224-5260)、FAX(055-224-5386)、Eメール(ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp)にてお申し込みください。
なお、FAXまたはEメールの場合、件名として「春季総合講座への参加希望」をお書きいただき、氏名、住所、電話番号を必ずご記入ください。

主催 山梨県立大学 地域研究交流センター

参加費
無料



山梨県立大学

飯田キャンパス(国際政策学部・人間福祉学部)
〒400-0035 山梨県甲府市飯田5-11-1 TEL.055-224-5261 FAX.055-228-6819





山梨県立大学観光講座 2014

甲府盆地をとりまく 自然と文化

参加
無料



甲府盆地およびその周辺域は四方を山々に囲まれ、盆地と周辺山地との標高差は本邦では最大級です。その点では、やや閉鎖的なイメージもありますが、甲府盆地一帯の自然の仕組みや歴史・文化を紐解きますと、実は地球・宇宙スケールでも誇るべきものが豊富に存在しています。この機会に、甲府盆地および周辺域の新しい価値に触れてみませんか。

開催時間：午後1時30分～午後4時30分 (受付は午後1時から)

開催場所：山梨県立大学飯田キャンパス 講堂 (甲府市飯田5-11-1)

9月7日(日)

八ヶ岳高原から電波で探る宇宙 国立天文台 梅本 智文
"星の名産地" から宇宙をのぞむ 星空工房アルリシャ 高橋真理子

9月28日(日)

フォッサマグナと甲府盆地の自然変遷 山梨県立大学特任教授 輿水 達司
富士川と南海トラフを結ぶ駿河湾の海底地形と地質構造 東海大学海洋学部教授 根元 謙次

10月12日(日)

伊豆半島の本州衝突の痕跡を桂川流域で探る 山梨県立都留高等学校教諭 深山 光也
勝沼・一宮の扇状地とワイン文化 信玄公宝物館館長 小野 正文

10月19日(日)

気象から読み取る山梨の自然 甲府地方气象台 北野 芳仁
甲府盆地の生き物と地球環境問題 日本環境動物昆虫学会 北原 正彦

10月26日(日)

甲府盆地の河川～くらしを高める願いが変えた川の流れ～ 南アルプス市教育委員会 田中 大輔
富士川舟運の環境と文化 山梨県埋蔵文化財センター元所長 新津 健

参加申込：TEL.055-224-5260 FAX.055-224-5386
E-mail ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp にてお申し込みください。

なお、FAXまたはE-mailの場合、件名として「観光講座への参加希望」をお書きいただき、氏名、住所、電話番号、参加希望日を必ずご記入ください。

主催：山梨県立大学 地域研究交流センター

平成26年度県民コミュニティーカレッジ(地域ベース講座)

「花子とアン」と山梨

～あなたの生活の身近に繋げて～

NHKドラマ『花子とアン』では、山梨の様々な魅力がうかがえます。
この機会に、山梨を多方面から探求し、みなさまの毎日の生活が豊かに広がりますよう、
一緒に学んでいきましょう。

| | | | | |
|-----|-------|---|---|---|
| 第1回 | 9/13 | 土 | ドラマの中の甲州弁 | 山梨県立大学名誉教授 秋山 洋一 |
| 第2回 | 9/20 | 土 | 伝えたい 山梨の女性たち —明治・大正・昭和を生きたさまざまな「花子」たち— | 山梨県立大学地域研究交流センター特任教授 池田 政子 やまなし地域女性史「聞き書き」プロジェクト |
| 第3回 | 9/27 | 土 | ご近所のお顔の見える関係づくり | 山梨県立大学看護学部講師 望月 宗一郎 |
| 第4回 | 10/11 | 土 | 「花子とアン」のまちづくり —甲府市での観光振興の試み— | 山梨県立大学国際政策学部教授 吉田 均 吉田ゼミ学生有志 |

時間：14時～15時半(受付は13時半から) 場所：山梨県立大学飯田キャンパスA館サテライト教室

参加申込

参加費用は無料です。
電話番号(055-224-5260)、FAX(055-224-5386)、
Eメール(ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp)にてお申込みください。
なお、FAXまたはEメールの場合、件名として
「平成26年度県民コミュニティーカレッジ(地域ベース)」をお書きい
ただき、氏名、住所、電話番号、参加希望日を必ずご記入ください。

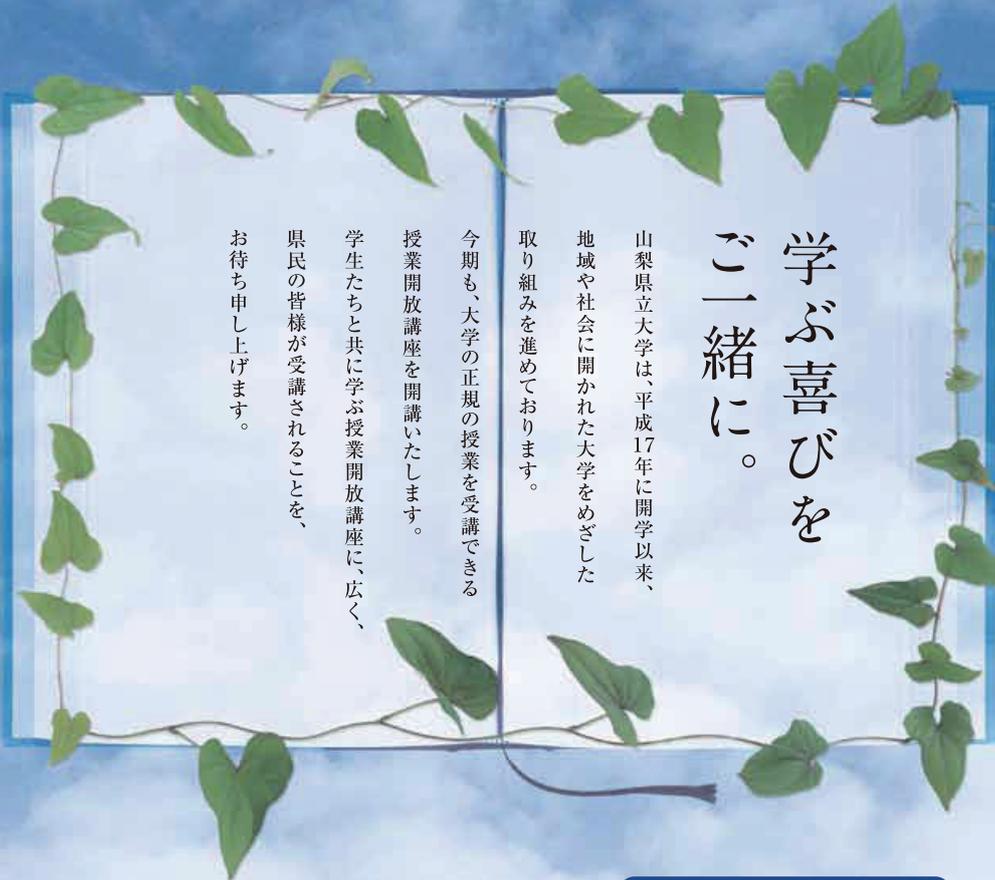
◆主催：山梨県立大学 地域研究交流センター



山梨県立大学

後期 授業 開放講座 2014

受講生募集



学ぶ喜びを
一緒に。

山梨県立大学は、平成17年に開学以来、
地域や社会に開かれた大学をめざした
取り組みを進めております。

今期も、大学の正規の授業を受講できる
授業開放講座を開講いたします。
学生たちと共に学ぶ授業開放講座に、広く、
県民の皆様が受講されることを、
お待ちしております。

受講条件

高等学校卒業程度以上の学力を有する方ならどなたでも受講応募ができます。受講の決定にあたっては、各科目担当教員が選考条件を定めますので、その条件をご確認ください。なお、大学院看護学研究科の授業開放科目は、大学卒業程度以上の学力を有することが、基本的な要件となります。

授業開始日

平成26年9月26日より順次

場所

山梨県立大学飯田キャンパス(甲府市飯田5-11-1)
山梨県立大学池田キャンパス(甲府市池田1-6-1)
授業によって異なりますので、別途配布する募集要項でご確認ください。

募集要項の請求

受講生募集要項の事前予約を受け付けます。実際の配布は平成26年9月上旬から行う予定です。
TEL055-224-5260、FAX055-224-5386、Eメール(ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp)にて平成26年度後期山梨県立大学授業開放講座受講生募集要項の送付をお申し込みください。
なおFAXまたはEメールの場合、件名として「平成26年度後期山梨県立大学授業開放講座受講生募集要項の送付希望」とお書きいただき、氏名、住所、電話番号を必ずご記入ください。

講座の試聴

受講を考えているが、講座の内容がよく分からないので確認したいという方は、平成26年9月26日(金)～10月3日(金)まで講座の試聴をすることができます。
TEL055-224-5260、FAX055-224-5386、Eメール(ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp)にて、受講しようとする科目の開講の前日までに山梨県立大学授業開放講座試聴申込書を提出してください。

受講申込書の送付先及び申込期限

〒400-0035 山梨県甲府市飯田5-11-1 山梨県立大学学務課
平成26年10月3日(金) 午後5時【必着】



飯田キャンパス(国際政策学部・人間福祉学部)
〒400-0035 山梨県甲府市飯田5-11-1 TEL 055-224-5261 FAX 055-228-6819

池田キャンパス(看護学部・大学院看護学研究科)
〒400-0062 山梨県甲府市池田1-6-1 TEL 055-253-7780 FAX 055-253-7781



東日本大震災被災地応援企画

秋だよ! サンマだよ! 全員集合!

穴山町サンマ祭り2014

10月18日(土) 10:00~15:00

穴山町ふれあいホール



2011年3月11日に発生した東日本大震災から3年半が経ちました。時間の経過とともに人々の関心が薄れてゆく中、復興支援の気持ちを持ち続けていくために、今年も気仙沼からサンマを取り寄せます! 秋の味覚を楽しみながら、併せて被災地の近況を学ぶ有意義な場を持ちたいと思います。

日時 2014年10月18日(土) 10:00~
場所 穴山町ふれあいホール
〒985-0201 気仙沼市穴山町4487-1
TEL 0551-25-5956 (当日のみ)

プログラム

- 10:00~ **第一部 被災地支援報告会**
講師: JVC気仙沼事業スタッフ
- 11:00~ **第二部 サンマを食べて支援しよう!**
炭火焼きで旬のサンマを楽しみましょう!
ごはん・味噌汁付き
気仙沼応援グッズ、水産加工品、地元産品の販売もあります。
- 12:00~ こしお うちばやし
小町夕打囃子 演奏
- 15:00 終了予定

新鮮な
生サンマも
買えるよ!

参加費 700円

主催 穴山町サンマ祭り2014実行委員会
協力 特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター(JVC)、山梨県立大学地域研究交流センター、社会福祉法人信立大和会 穴山の里・穴山の杜、Cafe おちゃのじかん
後援 気仙沼市、気仙沼市観光協会、気仙沼市

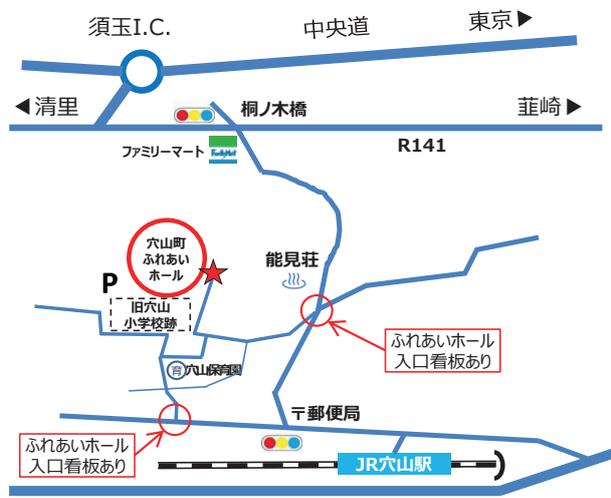
お問い合わせ・お申込み

おちゃのじかん(清水) TEL: 0551-25-2321
穴山公民館(館長:嶋津) TEL: 0551-25-5813



気仙沼市内の小町夕(こしお)地区では、地域の伝統芸能として太鼓の打囃子(うちばやし)が盛んに行われ、小町夕打囃子保存会という団体により代々引き継がれてきました。ところが、今回の震災の津波によって、太鼓や笛などの道具が流出し、保存会は活動を続けることが困難な状況に立たされました。このような状況を知り、JVCが全国に呼びかけた結果、様々な方からご支援を頂き、保存会は活動を再開することができました。今年のサンマ祭りでは活動を再開した小町夕打囃子保存会の皆様が来場し、和太鼓の演奏を披露します。

穴山町ふれあいホールのご案内



山梨県立大学
第7回
保育リカレント講座

2015

1/31 (土)

AM10:00~12:00

発達 障害児の 支援ワークショップ

～理論と実技～

会場

山梨県立大学飯田キャンパス講堂

定員

70名(メール・電話で申し込み受付)

対象

保育・教育関係者、一般、学生、その他

参加費

無料

講師

三浦光哉 先生



山形大学大学院教育実践研究科教授
山形大学特別支援教育臨床科学研究所所長
特別支援教育士SV、学校心理士SV、
ガイダンスカウンセラー、K-ABC認定講師

— 問い合わせ・申込み先 —

山梨県立大学地域研究交流センター

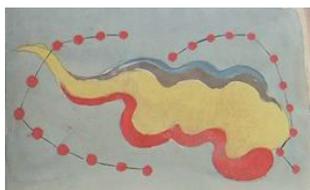
☎ 055-224-5260 ✉ ucre-accept@yamanashi-ken.ac.jp

Eメールの場合、件名を『保育リカレント講座申込』とし、お名前・ご住所・電話番号をご記入ください。

主催：山梨県立大学 人間福祉学部人間形成学科

共催：山梨県立大学 地域研究交流センター

公立大学法人
 山梨県立大学
Yamanashi Prefectural University



『天元玉曆祥異賦』彩色抄本より

主催
山梨県立大学
地域研究交流センター
国際政策学部

400-0035
山梨県甲府市飯田 5-11-1
山梨県立大学飯田キャンパス

電話 : 055-224-5261
FAX : 055-228-6819

山梨県立大学
地域研究交流センター・
国際政策学部共催講演会

異文化理解
～中国の怪異（妖怪）と談話～

第1回

2015年1月14日（木）午後1時～2時30分

題目 「怪異・妖怪から見る中国社会史」

講師 佐々木 聡 （東北大学東北アジア研究センター研究員）

会場 A館606教室

第2回

2015年1月21日（木）午後1時～2時30分

題目 「怪異がお話になるとき—六朝志怪の世界」

講師 佐野 誠子 （和光大学表現学部准教授）

会場 A館サテライト教室

司会 名和 敏光（国際政策学部准教授）

東アジアの前近代史をひもとけば、たちまち怪異や妖怪の記事に行き当たる。神々や幽霊、そして物の怪たちは、けっして小説や戯曲の世界だけでなく、当時の社会を生きる人々にとって、ある種のリアリティーを持った存在であった。そして、それは現代的な「オカルト」とは一線を画す、社会通念としての意味を持っていた。本講座では、2回にわたり、中国の怪異・妖怪を通して異文化の一面を探る。

山梨県立大学
地域研究交流センター
人間福祉学部共催

ソーシャル
ワーク
セミナー
2014

ソーシャルワーク方法論の一つとして、学生時代にグループワーク論を学んだ方も多いと思いますが、皆様は実践に生かしていらっしゃるでしょうか？グループワークの理論と方法は、グループ活動への個人とグループへの支援として、社会福祉の様々な場面で応用できます。アメリカの実践的グループワーク論から、日ごろの実践を見直し、楽しみながら学ぶセミナーです。お気軽にご参加ください。

記

- ◆日時 平成27年 1月15日 (木) 15:00 ~ 17:30
- ◆場所 山梨県立大学飯田キャンパス 講堂
- ◆テーマ 「アメリカのグループワークの基本と実践」
- ◆講師 クルーム・洋子氏
- ◆内容 15:00-16:10 講義と小アクティビティ
16:10-16:25 休憩
16:30-17:30 例題を利用した小グループ演習
- ◆対象 医療・保健・福祉に携わる現任職員、学生 等80名程度
- ◆受講料 無料

クルーム・洋子氏略歴

1949年東京都に生まれる。
国際基督教大学卒業後、米国に留学、
ノースカロライナ大学公衆衛生学部博士号取得。同大学のソーシャルワーク
修士課程修了後、州立精神病院のクリ
ニカル・ソーシャル・ワーカー、州高
齢者対策本部調査部主任研究員、ノ
ースカロライナ州立大学機構の准教授を
経て、2014年6月に退職。
現在は、エイジング・ライフ・コンサ
ルタントとして研究・教育活動に従事。

◆申し込み先

山梨県立大学地域研究交流センター
E-mail

ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp

FAX 055-224-5836

TEL 055-224-5260

※所属・連絡先（住所、電話番号）・
氏名・職名等をお知らせください。

2014 山梨県立大学 地域研究交流センター 研究報告会

山梨県立大学地域研究交流センターでは、
大学の知的資源を有効に活用することによって地域社会の発展に寄与したいと考え、
本学教員による地域貢献に資する研究に対して支援を行なって参りました。
今年度もその成果を地域により広く発信し、より多く還元することを目的として
「地域研究交流センター研究報告会」を実施します。
どうぞお気軽にご参加ください。

- 開催日時
平成27年3月24日(火) 13:00~17:00
- 開催場所
山梨県立大学
飯田キャンパス サテライト教室 (甲府市飯田五丁目11番1号)

プログラム

| 時間 | 研究テーマ | 研究者代表 |
|-------------|--|-----------------------------|
| 13:10~13:40 | 双方向型の高大連携による 地域資源を活かした授業モデルの構築 | 国際政策学部教授 吉田 均 |
| 13:40~14:10 | 地域の公立学校における タブレット端末利用上の課題に関する研究 | 国際政策学部教授 八代 一浩 |
| 14:10~14:40 | 山梨県の小学校における「外国語活動」の 効果的運営に関する実践的研究 | 国際政策学部准教授 高野 美千代 |
| 14:40~15:00 | 休 憩 | |
| 15:00~15:30 | やまなし地域女性史「聞き書き」プロジェクト —「聞き書き証言集第3集」の刊行に向けて | 地域交流研究センター 特任教授 池田 政子 |
| 15:30~16:00 | 医療従事者の認知症対応能力向上に 向けての取り組み —地域中核病院看護職者を対象とした 「認知症対応能力向上」研修会の企画と評価— | 看護学部教授 流石 ゆり子 |
| 16:00~16:30 | 小学生とその親を対象とした 「いのちの学習会」の効果 | 看護学部教授 名取 初美 |
| 16:30~17:00 | 外国につながるある就学前児童のための プレスクール構築に向けて | 看護学部准教授 長坂 香織 |

受講 参加費無料で出入り自由です。
方法 事前の申し込みも不要ですので、お気軽にご参加ください。

問い合わせ先 山梨県立大学 地域研究交流センター TEL.055-224-5260

地域社会の発展は
コミュニケーションの
輪から生まれます。



山梨県立大学
Yamanashi Prefectural University



2014 年度 山梨県立大学 地域研究交流センター 年報

発行者：地域研究交流センター長 吉田 均
編集：地域研究交流センター 情報発信部門
部門長 藤谷 秀 (福祉コミュニティ学科)
二宮 浩輔 (総合政策学科)
張 兵 (国際コミュニケーション学科)
古屋 祥子 (人間形成学科)
小尾 栄子 (看護学科)

発行所：山梨県立大学地域研究交流センター

住所：〒400-0035 山梨県甲府市飯田 5 丁目 11-1

TEL：055-224-5260 FAX：055-224-5386

E-mail: ucrc@yamanashi-ken.ac.jp

URL: <http://www.yamanashi-ken.ac.jp/ucrc/>

発行日：2015 年 5 月 20 日

